

統計研究参考資料

No. 17

統計調査員問題の実証的研究
——国勢調査員の業務と意識——

1984年2月

法政大学

日本統計研究所

目 次

I	論 文	統計調査員問題の実証的研究……………	1
		——国勢調査員の業務と意識——	
II	資 料	昭和55年国勢調査員調査報告	
	1.	調査の主旨……………	34
	2.	調査の概況……………	35
	3.	調査協力者……………	35
	4.	集 計 表……………	36
		(1) 国勢調査員調査対象者属性表……………	36
		(2) 質問別集計結果表……………	39
	5.	調 査 票……………	60

I 統計調査員問題の実証的研究*

— 国勢調査員の業務と意識 —

山 田 茂 (九州大学)

国勢調査は、その調査項目の内容からも、各種の調査の基礎としても国の統計体系の中で重要な位置を占めている。また、調査対象と動員される調査員数の点でも最大規模の調査である。この国勢調査にも、実施の困難化が関係者の間で指摘されるようになった。

本稿では、このような状況にある国勢調査について国勢調査員を対象とする調査結果を用いて、その実施をめぐる諸問題を検討する。

今回の国勢調査員の調査は、一連の統計環境に関する調査の一環として行なわれたものである（調査方法については、後掲の「調査方法と回収率」参照）。このうち今回の調査と直接関連のある2本の調査は、1978年秋に実施された成人の住民を対象とする調査（以下住民調査とよぶ）、および1979年秋に実施された常任調査員・大規模調査に従事する調査員を対象とする調査（以下1979年調査員調査とよぶ）である（表1参照）。

表1 今回の調査（国勢調査員調査）と関連する調査

調査名	実施時期	対 象
住 民 調 査	1978年11月 ～ 12月	福岡市・矢部町・富江町 ・東京都町田市山崎団地 ・北九州市八幡区居住の一般成人住民
1979年調査員 調 査	1979年10月 ～ 80年 1月	東京都・九州（大分・宮崎を除く）四県の常任 調査員および大規模調査従事調査員

* 本研究で用いた資料は、主として後掲のトヨタ財団昭和55年度研究助成による「社会環境の変容と統計調査員問題の実証的研究」の「国勢調査員調査」である。なお、研究メンバーは、大屋祐雪（代表者・九州大学）、坂元慶行（文部省統計数理研究所）、森博美（法政大学）、高橋政明（鹿児島大学）、永井博（熊本商科大学）、浜砂敬郎（九州大学）である。

この2本の調査の結果を、以下に要約しておこう。まず、住民の統計調査に対する態度は、役場などの調査主体の権威や調査員との日常の人間関係によって規定される傾向がみられた。そして、若い世代ほど統計調査に対する協力意識が弱まっており、統計の社会的影響力に対しても否定的であることが確認された。

また、住民の近隣関係に対する意識は、都市部と農村部との間で大きな差異がみられ、都市部ほど統計調査に対して協力的でない傾向がみられた。

調査員の側では、統計の社会的意義の不鮮明化と実査の困難化が、残存していた「名誉職意識」を希薄化させ、選任難が表面化している。このような状況の中で、都市部ではパートタイマー的な職種として調査に従事する人々が登場し、農村部では統計調査を「余分な仕事」とみなす役場職員の間で不満が募っている。

今回の調査地点と、前2回の調査との対応関係は表2に示されている。今回の調査地点は、前2回の調査地点・地域にできるだけ対応するように選んだ。なお、前回の調査では「都市化」の指標として、農林漁業などの第1次産業就業者の比率（対就業者総数—1975年国勢調査）を利用した。表2の中の今回の各調査地点の地域類型は、80年国勢調査の第1次産業就業率（表3）によるものである。

表2 前2回の調査の調査地点・地域類型との関係

住民調査の調査地点	1979年調査員調査の調査地点	第1次産業就業率	今回の調査 (国勢調査員調査)
東京都町田市 北九州市八幡区 福岡市	東京都 北九州市 県庁所在地 その他	0～15%	福岡市
	都市部		
	準都市部	15～30	柳川市
	準農村部	30～50	天明町・富江町
富江町 矢部町 知覧町	農村部	50～	矢部町

表3 調査地点の概況と調査困難の指標

〔昭和55年国勢調査報告〕による)

	福岡市					計	柳川市	天明町	富江町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
総人口 1980年(万人)	12.4	16.2	19.7	39.4	21.1	108.9	4.5	1.1	0.9	1.6
1970-75 年の増減(%)	△5.1	△3.5	21.0	31.7	18.5	15.0	△1.6	△3.0	△7.3	△9.8
1975-80 年の増減(%)	△2.2	△0.7	9.5	16.4	9.1	8.6	1.2	0.0	△6.0	△5.0
第1次産業 就業率(%)	1.3	0.8	2.3	4.1	0.8	2.2	25.2	44.0	44.0	52.1
過去5年間 の転入者(%)	50.7	44.2	47.8	51.2	50.7	49.3	18.8	21.5	14.7	10.7
市内他区で 就業(%)	26.0	16.7	37.2	45.7	48.4	36.6	—	—	—	—
自市・町外 で就業(%)	3.0	5.2	7.1	3.2	5.3	4.6	25.6	30.8	5.6	2.6
単身世帯 普通世帯(%)	36.8	27.7	28.5	23.7	22.4	26.6	6.1	5.7	21.6	11.8
年齢不詳 (%)	0.44	0.25	0.03	0.20	0.25	0.21	—	—	—	—
配偶関係 不詳(%)	0.86	0.67	0.42	0.54	0.53	0.53	0.07	0.11	0.07	0.10
労働力状態 不詳(%)	0.71	0.48	0.31	0.52	0.54	0.50	0.09	0.15	0.21	0.15

〔就業地〕は、1975年の値)

ここで、各調査地点の全般的な状況を把握するために、国勢調査の集計結果(表3)を一瞥しておこう。

福岡市では、市域全体の人口は増加し続けているが、市域内部での変動は一律ではない。つまり、中心部の中央区・博多区で減少し、周辺部の3つの区で増加している。「都市化」の指標として利用した第1次産業就業率は、各区とも5%以下とすでにきわめて低い水準に到達している。過去5年間の転入者も、市内・区内での転居を含めて約半数に達し、地域の人間関係は希薄化しつつあると考えられる。²⁾このような傾向は、調査員の世帯訪問時の反応にも、何らかの影響を与えていることが予想される。

また、就業者の通勤先では、市外や市内他区で働くものが、市全域で4割以上を占め、特に周辺部の区では半数前後に達している。この点は、主婦の就業率の上昇とともに、昼間の

不在世帯の増加をもたらし、調査員の夜間訪問回数の増加の要因と考えられる。単身世帯の比率も、他の地点よりもかなり高く、特に若年の単身世帯が多いので、不在のために調査員が再訪問しなければならない可能性は高くなる。

次に、その下の3つの欄に目を移そう。まず、「年齢不詳」は、世帯側の不注意による記入漏れ、および対象世帯が長期不在の場合にのみ行なわれる近所の聞きとりによって発生したものである（この聞きとり調査では、「氏名」「男女の別」「世帯人員」だけが調査される）。後述の「いやがられた項目」（問9—3）の回答によれば、「年齢」はほとんど忌避されていないので、この項目だけを意識的に記入しなかった場合はごく僅かであろう。したがって、「年齢不詳」は、世帯側の不注意による記入漏れに調査員が気づかなかった場合を別にすれば、不在世帯によるものが大部分であると考えられる。また、聞きとり調査のもう一つの指標と考えられる「世帯の種類不詳」と組み合わせると、「年齢不詳」の多くは、単身世帯とみられる。

「配偶関係」と「労働力状態」は、15才以上の全員について記入がもとめられている項目である。両項目の記入は、いくつかの選択肢から該当するものを選ぶ形式なので、きわめて容易であり、記入方法の理解が十分でないために「不詳」が発生する余地は少ない。したがって、両項目の「不詳」は、「年齢」と同じように不注意による記入漏れを別にすれば、両項目の回答自体に対する嫌悪感による無記入が調査員・指導員などによってカバーしきれなかった結果であると考えられる。

福岡市についてのこれら3つの欄の数字は、全国計（「年齢不詳」0.06%、「配偶関係不詳」0.20%、「労働力状態不詳」0.17%）の2.7倍から3.5倍に達しており、調査の困難度と不完全度が他の地域より高いことがわかる。

次に、柳川市は、今回の調査地点の中では、福岡市と農村部の3地点の中間に位置付けられている。柳川市の人口を、過去10年間についてみると、増減はごく僅かで、過去5年間の転入者も2割弱で、福岡市と比べれば低い水準にあり、地域社会はある種の「落ちつき」を保っているといえる。しかし、市外への通勤者は、約1/4（対就業者総数）に達し、第1次産業就業率も減少傾向にあり、久留米市・福岡市のベッド・タウンとしての性格をもちつつある。

残りの3つの町では、第1次産業就業率は減少傾向にあるものの、4割から5割あり、地域社会は色濃く農村色を残していると考えられる。過去5年間の転入者も11~22%と低い水準にあり、地域の人間関係は都市部と比べれば濃密であろう。

3町の間には多少の差異もみられる。天明町は、熊本市（人口約52.6万人—1980年）に近接しているため、町外通勤者や転入者の比率は、富江町や矢部町よりも高い水準にあり、

消極的非協力などの形での調査困難の発生が予想される。

また、富江町では、単身世帯が福岡市（27％）に次いで多い（22％）が、自宅外の就業の少ない高齢者がかなり含まれているので、不在世帯の要因にはあまりならないと考えられる。

調査の困難性と不完全性を示すとみられる3つの指標は、福岡市以外の各地点とも非常に低い水準にある。

以上みてきたように、5つの調査地点は、地域の「都市化」の程度と調査の実施条件においてさまざまな差異があり、国勢調査員の活動にも大きな差異があることが予想される。

1) 一連の調査の結果は、下記の報告書に収録されている。

九州大学経済学部統計学研究室『統計環境の実態』（住民調査の結果）1979年3月

法政大学日本統計研究所『研究所報』No.4（住民調査の分析）1979年3月

法政大学日本統計研究所『研究所報』No.5（1979年調査員調査の結果と分析）1980年3月永井博
「農山村の統計環境」熊本商科大学産業経営研究所『産経研資料』81号（矢部町住民のパネル調査の結果と分析）1981年11月

国勢調査員を対象とする調査は、総理府統計局によって、1960年調査以降毎回実施されている（承認統計・非公表）。また、調査世帯を対象とする調査も、1970年調査以降毎回実施されている（同上）。

2) 今回の調査期間中に、病死していた単身者を調査員が訪問時に発見する事例があった。

1 国勢調査員の諸属性

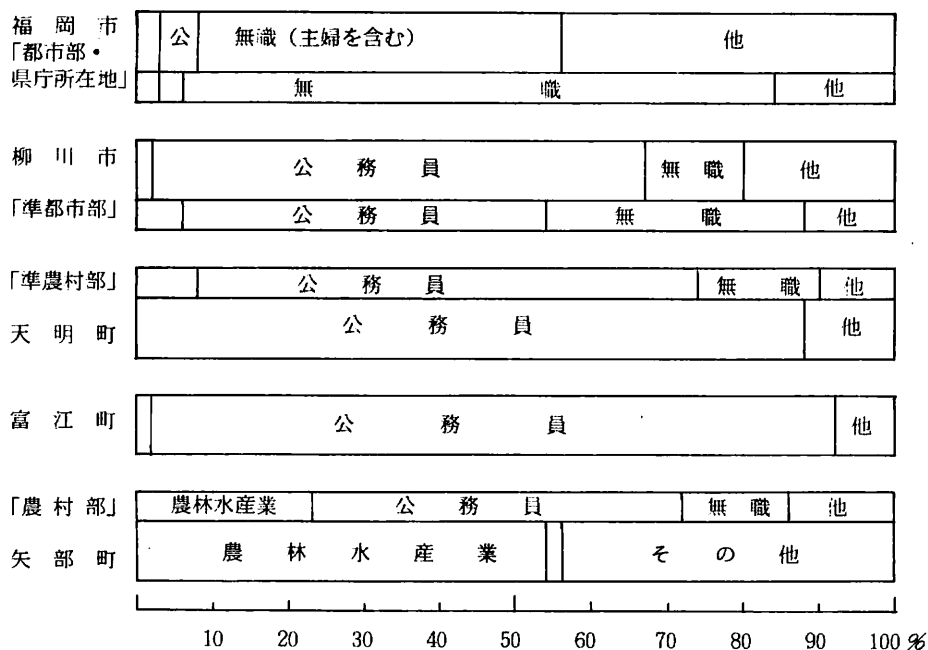
各質問の回答傾向をよりよく理解するために、ここで調査対象者の基本的な諸属性を1979年調査員調査と比較しながら概観しておこう。全般的にいて、調査員の諸属性はその選任方法によって規定されている。

図1は、調査員の職業構成を示している。福岡市、矢部町では民間人がほとんどで、残りの3地点では公務員が2/3以上を占めている。79年調査員調査の場合も、農村部では公務員が半数から2/3であった。しかし、農村部のこのような役場職員を動員する選任方法は調査対象(国勢調査の場合一市町村の人口規模)がある程度以上になると採用できず、各統計調査によって職員の縁故者への委託、一般からの募集、常任調査員制度の導入などの方法が用いられる。特に、都市部の国勢調査では、町内会など住民自治組織への委託が一般的とい¹⁾われている。

そこで、「調査員になったきっかけ」(問3)をみると、福岡市では約9割が「町内会の役員だから」、「町内会から推せんされた」と答えており、職業が「公務員」(6%-図1)のものも居住地での町内会などの関係から調査に従事したことがわかる。

図1 調査員の職業構成

注) 「 」内は、1979年調査員調査の地域類型(以下同様)。



次に、調査員の年齢構成をみよう。表4は、各調査地点の平均年齢を、表5は10才刻みの年齢構成を示している。²⁾福岡市が一番高齢者が多く、農村部では2/3以上が30代以下と若い構成である。柳川市は、福岡市と農村部の中間の構成である。なお、矢部町では調査員全員の³⁾を青年団員から選任したため、97%以上が25才未満で、10代も13%含まれている。

表4 調査員の平均年齢(試算)

調査地点	平均年齢
福岡市	52才
柳川市	44
富江町	36
天明町	30
矢部町	22

(各年齢階級「5才階級」の中央値を用いた。)

表5 調査員の年齢構成(%)

調査地点 年齢	福岡市	柳川市	富江町	天明町	矢部町
20代以下	3.9	8.2	33.9	58.9	97.2
30代	17.5	33.3	33.9	38.2	1.4
40代	20.0	23.4	16.1	2.9	0.0
50代	23.7	25.8	14.6	0.0	0.0
60代以上	33.3	8.7	9.7	0.0	0.0

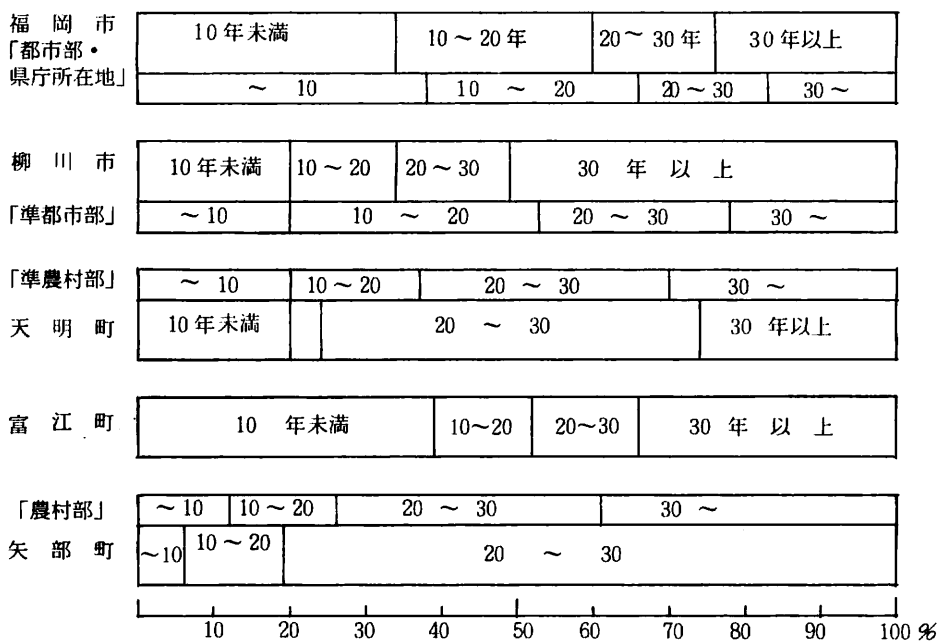
図2(問1)は、現在の住所での居住年数を示している。国勢調査の調査区は、調査員の自宅付近を割りあてられることが多いので、居住年数は担当調査区との地縁的関係の強さを反映しているとみられる。図2を福岡市から順にみてゆこう。10年刻みのグループにはば4等分されており、その中でもっとも長い「30年以上」も1/4近くを占めている。これは、調査員の同年代にあたる50代・60代の一般住民と比べても長いといえる。他方、被調査者である住民の方は移動が激しく(表3)、実査の両当事者は対照的である。このような状況は、福岡市以外の都市部でも同様であろう。

農村部では、「30年以上」はあまり多くないが、調査員の大部分が若年であることを考え合せると、出生時からの長期居住者が多く、住民との間には顔みしりの関係がかなり存在し

図2 調査員の居住年数

問1 あなたはいまの住所に何年くらい住んでいますか？

1	2	3	4	5	6	7
0年	5年	10年	15年	20年	25年	30年
}	}	}	}	}	}	以
4年	9年	14年	19年	24年	29年	上



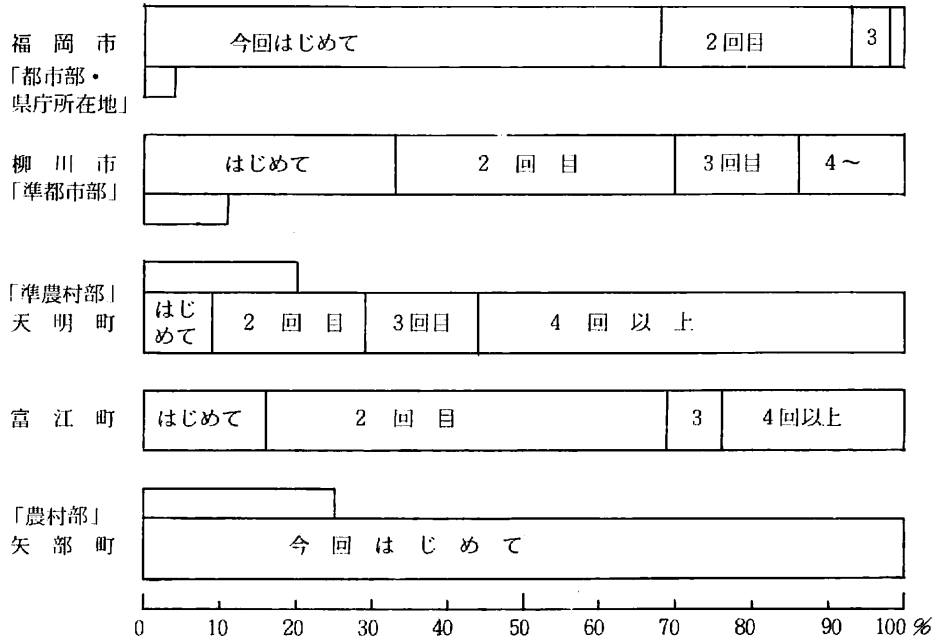
ているとみられる。

柳川市では、調査員に中高年齢者が多いので、「30年以上」は半数を占め、5地点の中では最高である。

調査員の諸属性の最後に、調査を進める上で重要な要素である調査従事者の経験（問2）と今回従事の動機についてみておこう（問4）。

図3は、国勢調査以外の統計調査を含む調査従事者の経験を示している。福岡市・矢部町を除いて、経験者は2/3以上を占め、数回以上の経験者も多い。今回の国勢調査がはじめての調査だというのは、福岡市・矢部町を除いて1割から2割にすぎない。矢部町では、前記のような選任方法をとったため、全員が未経験者である。福岡市でも未経験者が7割強を占めている。福岡市の経験者の場合、国勢調査以外の経験者は全体の3%とごく僅かで、残

図3 統計調査の経験回数



注) 調査員調査は、「今回はじめて」のみ示した。

りはすべて国勢調査だけの経験者である。福岡市と矢部町以外の地点では、前回の国勢調査に従事したことがあるものが半数を占めている（なお、質問文は、過去5年間について問うているが、それ以前の経験を加えても大勢に影響はないだろう）。

このように見て来ると、福岡市と矢部町では、日常は一民間人として生活している人々が、国勢調査という特別の機会にたまたま調査員という役割を演じさせられたことがわかる。したがって、その回答は、調査員の眼から見た被調査員の姿を語っているだけではなく、被調査者自身の感覚も含まれているように思われる。しかし、その意見は住民全体を代表するというよりは、地域社会で特定の立場にある特定の年代のものと考えべきだろう。後にみるように、中高年の調査員の回答には、一般住民の地域社会に対するプライバシー感覚（調査員に知られること自体やその口を通じて近隣に知られることに対する嫌悪感）への共感が薄い場合がみられた。この点は、次節でさらに検討しよう。

1979年調査の場合は、全くの未経験者は、5～25%で、都市部も含めて全般に経験豊富なものが多い。調査票末尾の意見記入欄への記入率は、18～39%で、国勢調査員（3～26%）より一段高く、調査員としての強い問題意識をもっていることがわかる。

図4は、国勢調査の調査員を引き受けた動機を示している。質問文（問4）は、該当するものを2つだけ選ぶ形式である。

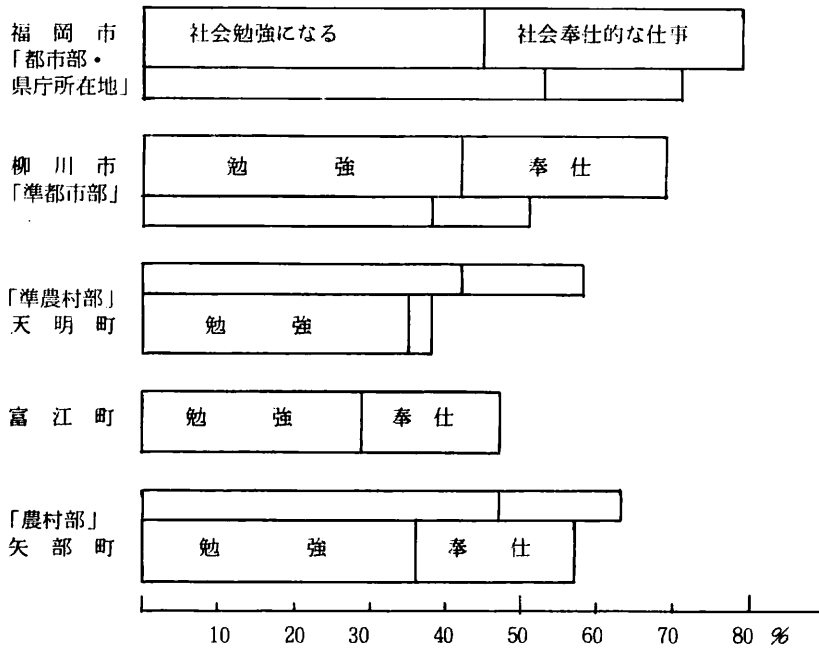
まず、統計調査自体に意義を認めている動機である「社会奉仕的な仕事をしたかった」、

図4 引き受けた動機

問4 調査員を引き受けた動機は次のどれに近いですか？二つだけ選んで下さい。

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1 社会勉強になるから | 2 頼まれたから仕方なく |
| 3 多少とも収入を得たいから | 4 ひまができたから |
| 5 社会奉仕的な仕事をしたかったから | 6 その他〔記入〕 |

〔積極的な動機〕



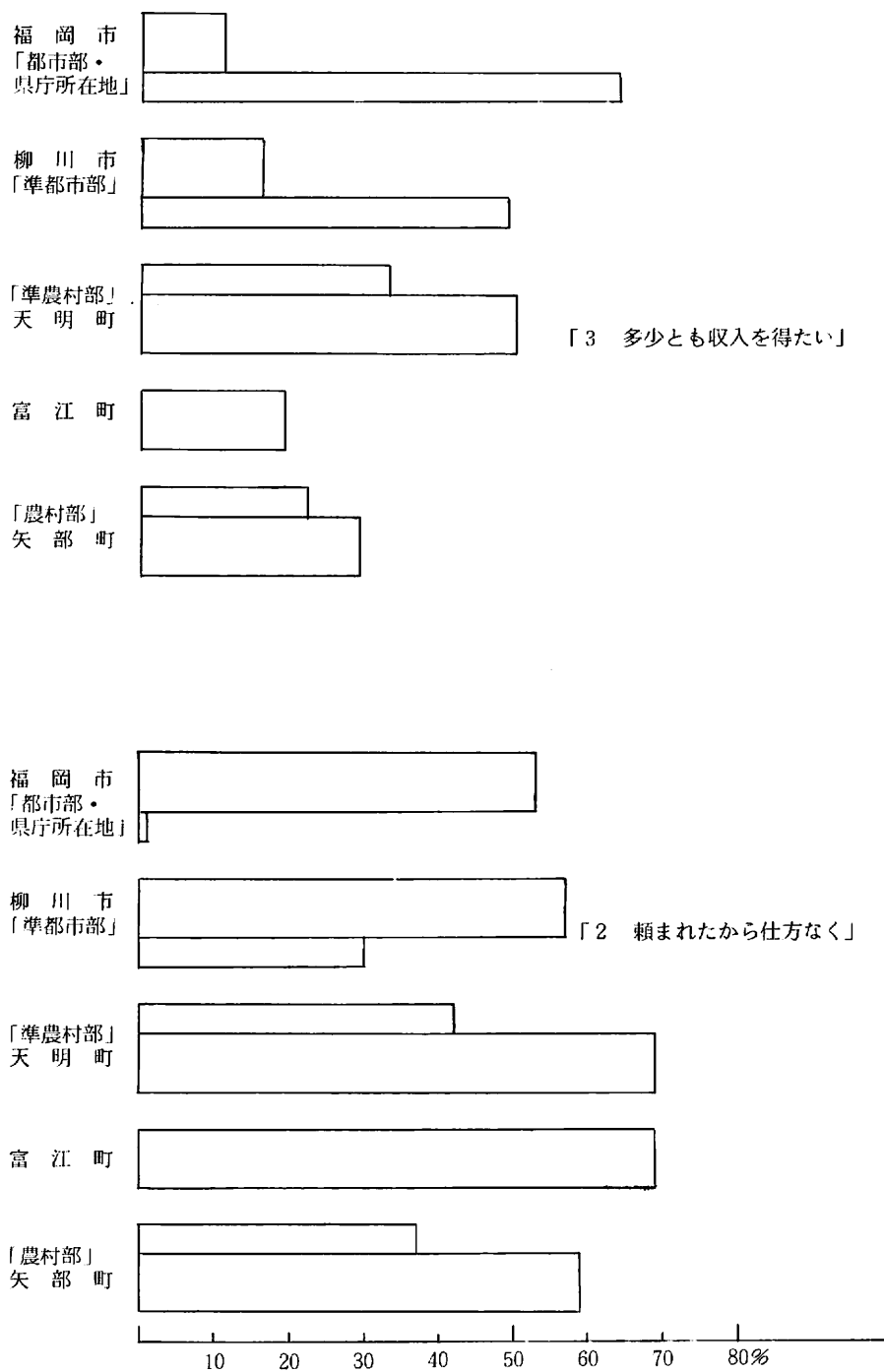
と「社会勉強になる」からみていこう。この2つの動機をあげているものは、民間人調査員の福岡市、矢部町と中高年の役場職員が多い柳川市で比較的高い水準（両者合せて6～8割）になっている。一方、若い役場職員が大多数の富江町と天明町では、5割弱と4割弱である。このような役場職員の消極的な傾向は、後でみる他の質問の集計結果とも符合している。なお、「奉仕」と「勉強」の両方を選んだものは各地点とも5%以下である。

1979年調査員調査では、国勢調査員と比べて「社会勉強になるから」が全般に多く、「社会奉仕的な仕事をしたかったから」は少ない。都市部で多いパートタイマー的な意識をもつ調査員や、「追加的業務」として従事する役場職員の回答なので当然であろう。

次に、比較的消極的な動機とみられる「多少とも収入を得たいから」をあげるものは、

農村部で多く、特に天明町では半数を占めている（図5）。 役場職員の場合は、「社会勉

図5 「消極的な動機」



強」「社会奉仕」といった積極的な動機はもてず、「ひまができたから」は該当せず、消去法で「収入」が残ったのであろうか。

1979年調査員調査では、一般的に国勢調査員よりも「収入」と答えるものが多く、都市部になるほど高率である。図は、報酬を第一の目的とする調査員が、都市部では多数であることを示している。

同じく消極的な動機とみられる「ひまができたから」は、各地点とも5～10%で、特定の傾向は国勢調査員の場合認められない。選任方法からこの動機の低率は当然であろう。79年調査員調査の場合、農村部では国勢調査の場合とほとんど変わらないが、都市部では3割を越える地域（北九州市）さえあるほどの高率で、「収入」、「社会勉強」に次いで第3の動機になっている。都市部では中年女性の比率が高いのでうなづける回答傾向である。

最も消極的な動機である「頼まれたから仕方なく」は、どの地点でも半数以上が選んでおり、特に役場職員が多い富江町、天明町では、7割を越えている。調査員の1/3を民間人が占める柳川市では、公務員の半数が「仕方なく」をあげているのに対して、民間人の場合は38%にすぎない。ここでも役場職員の消極性が確認される。

79年調査の場合は、「仕方なく」を選んだものは、農村部では約4割で、国勢調査の場合ほど多くはない。

79年調査の都市部では、「仕方なく」は3割以下である。「調査員になったきっかけ」の大部分が、「広報をみて応募」や「経験者から誘われた」であるので、うなづけよう。

以上の79年調査との比較・検討によって国勢調査員の中には、不承不承調査に従事している農村部の若い調査員と一応調査に積極的な意義を見出している都市部の中高年という2つのグループが存在することが確認された。

- 1) 「統計調査員実態調査」（行政管理庁『統計情報』 Vol. 21 No. 5, 6 所収）
- 2) 詳しくは、後掲の「調査対象者基本属性表」を参照。
- 3) 青年団員を調査員に選任した市町村は熊本県下では他にはない。

2 実査の状況

次に、今回の国勢調査の実査の状況をみてみよう。次節でもみるように調査員に特に問題視されているのは、留守などのための訪問回数の増加と夜間訪問である。

図6は、回収のための訪問回数を示したものである（問5a）。図では、総担当世帯に占める「1回の訪問で済み」、「2回で済み」、「3回以上」の各世帯の比率を示している。回

回収のために3回以上訪問した世帯からみていくと、福岡市が一番比率が高く、18%を占めており、調査員の負担は大きい。その他の地点では、3回以上はいずれも10%以下で、回収が比較的スムーズであったことを示している。他方、1回で済んだ世帯の比率は、福岡市を除く各地点が7割前後であるのに対して、福岡市では58%と他の地点より約1割少ない。

このように都市部の調査員の負担が重いという傾向は、1979年調査員調査でも、さらに明瞭に認められる。

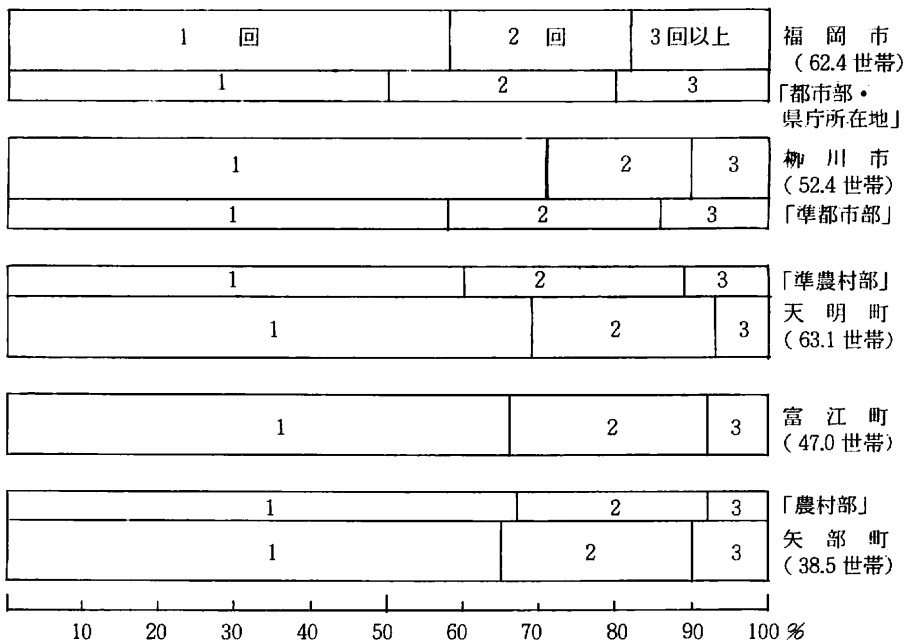
調査世帯数の差による負担の軽重をみるために、調査員一人あたりの担当世帯数を、図6の調査地点名の下に示した。天明町と福岡市だけが60世帯を越えている。一般に住宅が密集している福岡市はともかく、天明町ではかなりの負担になったものと思われる。この点は、後に述べる不満感の一因になったのではないかと考えられる。

図6 回収のための訪問回数

問5 今回の国勢調査で、あなたが担当された調査区についておうかがいします。

a 配布済の調査票の回収に要した訪問回数別の世帯数を記入してください。

訪問回数	1回で済み	2回	3回以上	計
回収世帯数	世帯	世帯	世帯	世帯

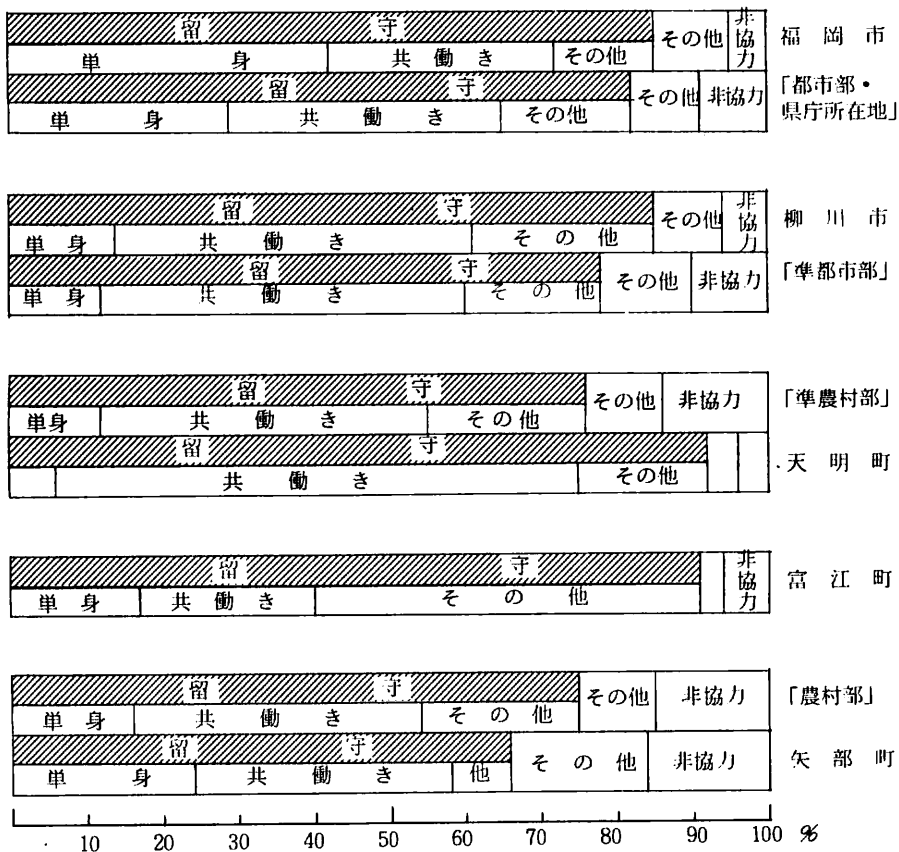


今回の調査では、3回以上訪問した場合についてその理由別世帯数をたずねている（問5b）。図7は、その集計結果である。各地点で大多数を占めているのは、「留守」である。「留守」の中では「単身世帯」が福岡市で多く、「共働き世帯」が天明町と柳川市で多い。ただし、福岡市の場合、3回以上訪問の世帯の比率は、他の4地点の約2倍あるので、「共働きの留守」の総世帯に占める割合は天明町や柳川市に匹敵する水準にある。

図7 訪問回数（回収）3回以上の理由

問5b) a) の回答欄で訪問回数が3回以上になった世帯について、理由別の内訳数を記入して下さい。

理由	留守のため			非協力の ため	その他の 理由	計
	単身世帯	共働き世帯	その他の世帯			
世帯数	世帯	世帯	世帯	世帯	世帯	世帯

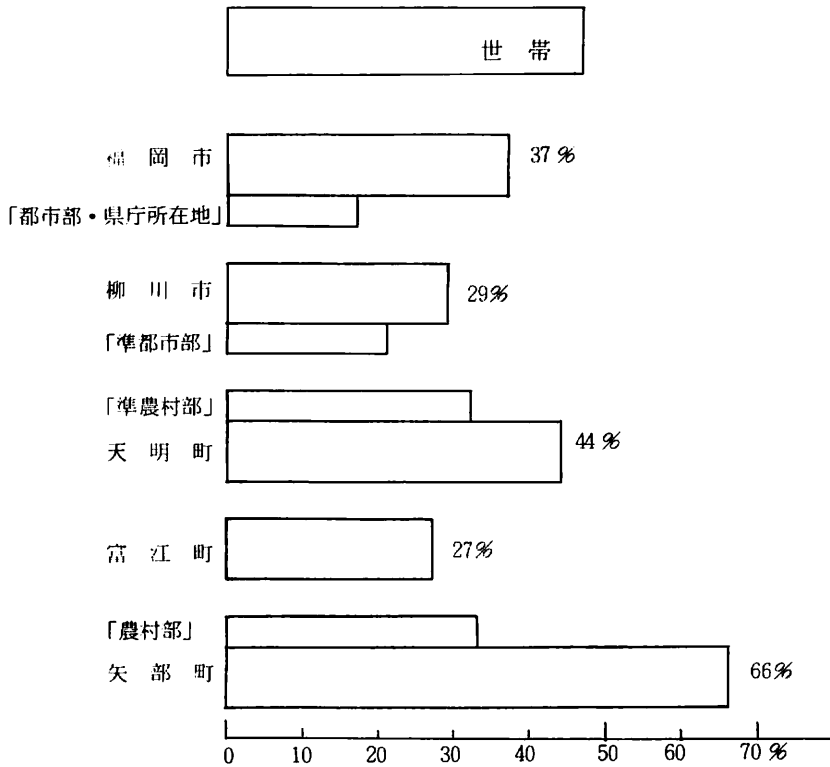


「非協力」が訪問3回以上に占める割合は、矢部町を除く各地点とも4～6%で、特定の傾向はみられない。矢部町の17%という「非協力」は、調査員全員が、役場職員でないこと、きわめて若年であることなどが作用しているのであろう。

1979年調査員調査と比べると、国勢調査の「非協力」の比率は全般に低い。標本調査が多い他の調査と浸透度が高い国勢調査の差があらわれているといえよう。

図8 夜間訪問世帯の比率

問5c) 担当世帯のうち、調査票を夜間（19時以降）回収した世帯は何世帯でしたか？



次に夜間訪問をみてみよう。図8は、午後7時以降の夜間回収世帯の比率を示している（問5c）。最も少ない富江町でも27%で、特に多い矢部町では66%を占めている。夜間回収をせざるをえなかったのは、調査員が昼間は農業・役場勤務など他に仕事をもっていること、担当世帯の不在などの理由によるものであろう。一方、1979年調査員調査の場合は17～33%で、農村部ほど高い比率になっている。これは、国勢調査の場合、担当調査区が自宅近くが多いのに対して、他の調査の場合には、通常、調査区が自宅から遠く、特に都市部では女性調査員が多いので夜間訪問が少なくなったためと考えられる。

以上では回収のための訪問のみを問題にしたが、調査票の配布のための訪問を含めれば、

どの地域でも調査員の負担はかなり重いとわざわざをえない。

国勢調査において担当調査区が調査員の自宅を含む地区に割りあてられることが多いのは、調査員の物理的負担が軽くなること、調査区の事情に通じていること、日頃から住民との交流があれば調査への協力が得られやすいと従来考えられていたことなどのためである。したがって、担当調査区の住民は顔みしりが多い場合が大部分であろう。

今回の調査の場合、「顔みしりが多い地区」を担当した者は最も低い地点（矢部町）でも64%で、残りはすべて7割以上である（問6a）。

しかし、住民調査の結果によれば、「顔みしりの調査員」に対して、都市部の若い世代の住民には抵抗感があることが確認されている。そこで、調査員にとっては「顔みしりが多い地区」の担当が好ましいかどうかを今回の調査ではたずねている（図9）。図の中で斜線を施したグラフは、同じ地点で実施した住民調査の結果を示している。

国勢調査員の場合は、「顔みしりの地区」の希望が圧倒的に多く、各地点で6～8割が望んでいる。調査員にとっては、地縁的な関係は、調査の円滑化に役立つと考えられているのであろう。

地点間の差異をみると、福岡市の中心部と柳川市で「顔みしりが多い地区」を望むものが他の地域よりもやや多い。この質問と調査員の年齢とのクロス集計をみると、高齢者に「顔みしりが多い地区」を望む傾向が強いので、調査員の年齢構成の差（両市は高齢者が多い）が、地点間の差を生じさせたのであろう。

一方、1979年調査員調査では、「顔みしりが多い地区」を望む比率は4割から6割で、都市部になるほど低くなっている。この調査の場合、都市部と農村部の調査員の間には、年齢構成の差があまりないので、訪問時の世帯側の反応の違いによるものだろう。このような傾向は、住民調査の結果とも一致する。

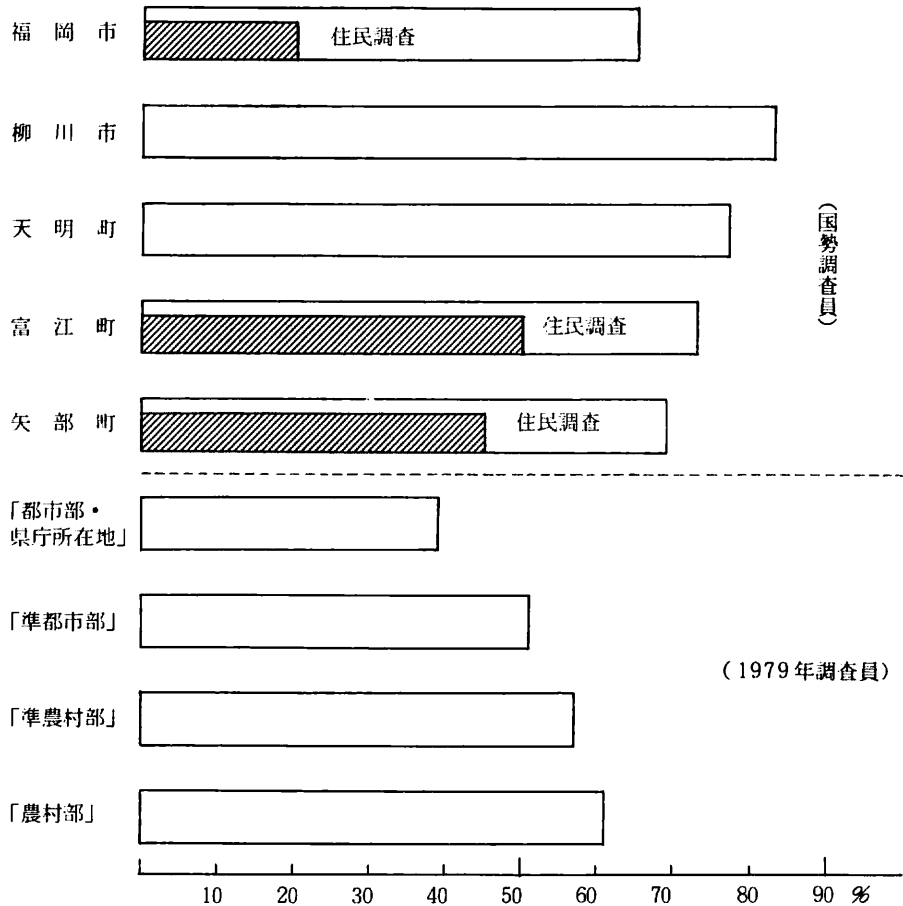
79年調査と比較すると、都市部の国勢調査員の「顔みしり」指向の強さが浮びあがる。住民調査の回答と対置すると、顔みしりでない調査員を望む大部分の住民と顔みしりであることを調査の推進力としようとする調査員という構図になる。このような当事者間の食い違いは、実査でのトラブルの要因になりかねないものと考えられる。国勢調査の場合、自宅付近の調査区でなければ、引き受けたくない調査員が大部分だと思われるので、他の調査と比べて問題の解決は難しい。

以上みてきたことから、世帯側のプライバシー意識は、調査員が近隣居住者である場合には、特に強い侵害感を覚えるものと考えられる。この点に配慮して今回の国勢調査ではじめて採用された「密封用封筒」の利用は、多い地点（富江町1.6%、福岡市1.4%）でも2%（総担当世帯比）を越えていなかった（問5d）。当局から積極的な使用の指示がなかった

図9 顔みしり調査区の希望

問6b) 今後担当調査区は顔みしりの人が多い地区をのぞみますか、それとも顔みしりの人が少ない地区をのぞみますか？

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 顔みしりが多い地区 | 2 顔みしりが少ない地区 |
| 3 どちらでもよい | |



こと、記入漏れなど調査票のチェックが不可能であることなどが、その理由であろう。

ところで、実査が困難化する状況の下で、事前の広報活動は、調査遂行の円滑化に一定の効果をもつものと考えられる。図10は、国勢調査の周知度についてたずねた質問（問7）の集計結果である。各地点とも半数前後の調査員が、「ほとんど世帯が知っていた」と答えており、「7～8割が知っていた」まで含めれば、調査員の9割前後に達する。

一方、1979年調査員調査での周知度は非常に低く、「ほとんどの世帯が知っていた」のは各地点とも5～8%にすぎない。この調査の自由記入欄には、「国勢調査以外の調査では周知度が低いので世帯の協力が得られにくい」との指摘が数多くみられた。

国勢調査の圧倒的な周知度の背後には、直前の広報活動の結果に加えて、5年間隔の全数調査であるため、過去に何度か調査を受けた経験が作用しているのであろう。

さて次に、実査の困難化の状況をさらに具体的に検討しよう。まず、困難化の大きな要因となっている非協力世帯の増加を、調査員はどのように見ているのだろうか。

図10 調査の周知度

問7 あなたが訪問されたとき、国勢調査が実施されることをどのくらいの世帯が知っていましたか？

1 ほとんどの世帯が知っていた。	2 7～8割の世帯が知っていた。
3 半分ぐらいの世帯が知っていた。	4 2～3割の世帯が知っていた。
5 ほとんどの世帯が知らなかった。	6 その他〔記入〕

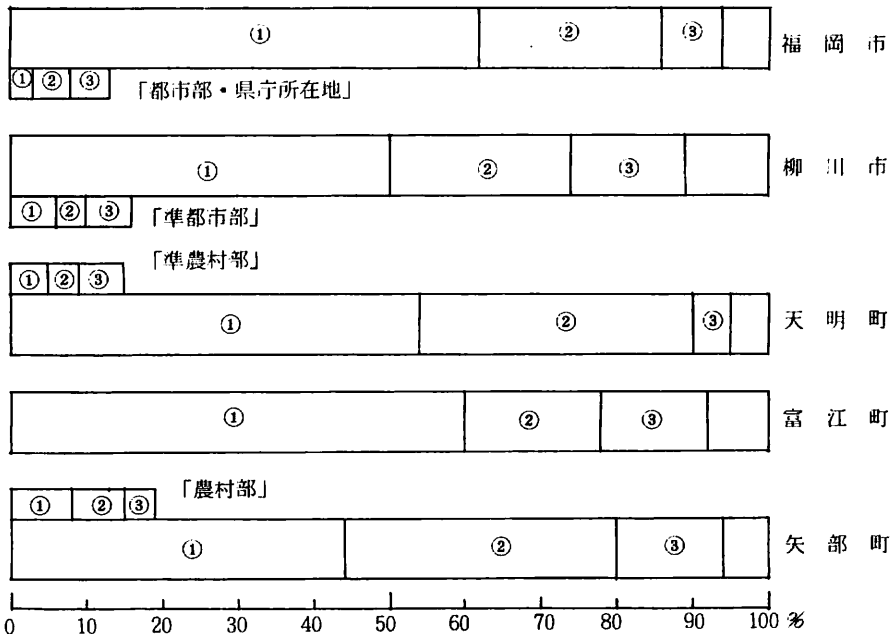


図11は、「調査をことわる世帯」の増加の理由をたずねた質問(問11)を集計したものである。回答者本人が担当世帯に調査票記入を拒否されるという形で、調査非協力を直接出会

わなくとも、訪問時の世帯の態度（潜在的な非協力を含めて）をこの質問の回答からうかがうことができると考えられる。

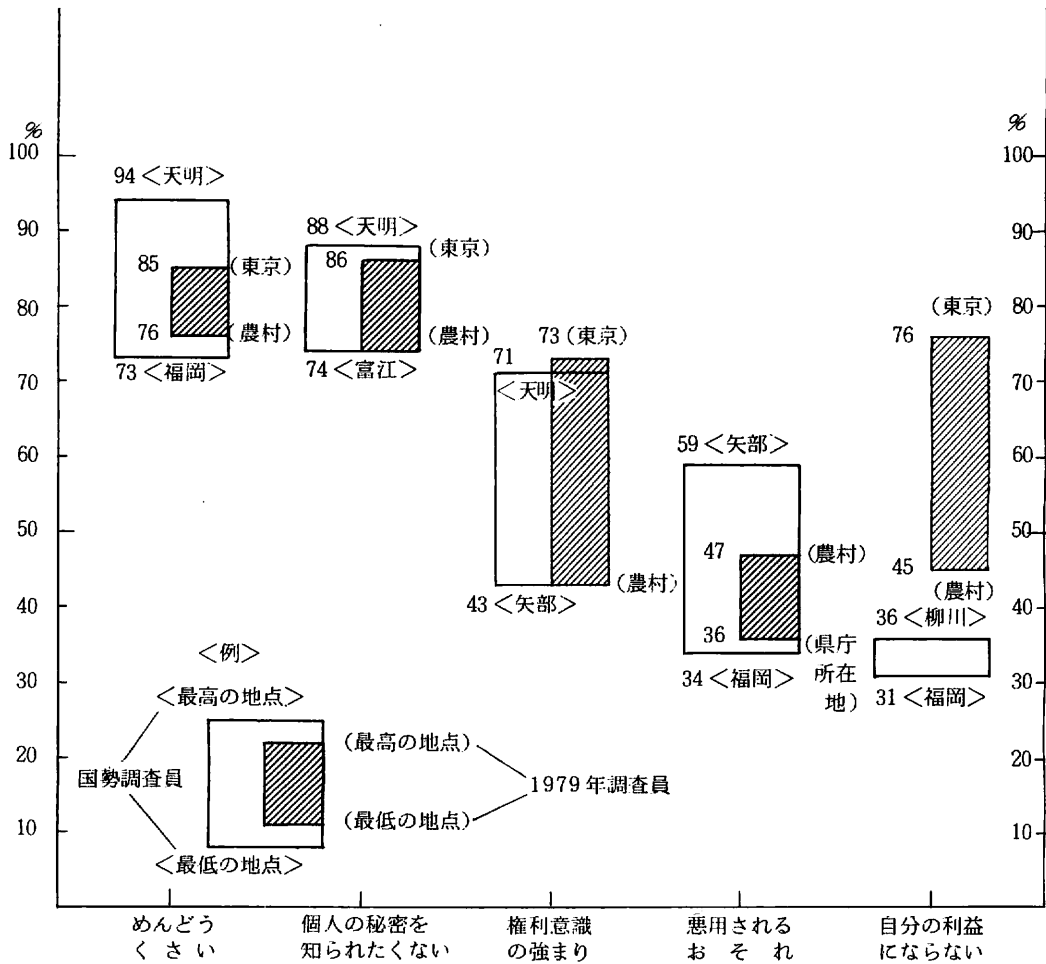
図11 調査非協力の理由

問11 最近、調査をことわる世帯がふえているといわれています。つぎのことからは、調査をことわる世帯がふえた理由としてどの程度大きいと思いますか？

a) 「個人の秘密を知られたくないから」というのはどの程度の理由でしょうか？

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 大きな理由になっている | 2 少しは理由になっている |
| 3 あまり理由になっていない | 4 全然理由になっていない |
| 5 その他〔記入〕 | |

(非協力の理由の肯定率 = 「1大きな理由…」 + 「2少しは理由…」)



この質問では、グラフの下に示した5つの理由について、非協力の理由になっている程度を4つの段階から選択する形式になっている。図11では、全体の傾向を見易くするために、「1 大きな理由になっている」と「2 少しは理由になっている」の回答比率の合計を肯定率とよび、5つの理由の間で比較している。また、5つの調査地点のうち最高の肯定率と最低の肯定率の間を棒グラフで示している。グラフのうち斜線を施したものは、1979年調査員調査の結果である。

肯定率の順位をみると、「自分の利益にならないから」を除く4つの理由の間では、79年調査員調査とはほぼ共通で、肯定率の高さ自体も変わらない。「めんどくさいから」と「個人の秘密を知られたくないから」が、1位と2位で、3/4以上の調査員によって肯定されており、調査世帯の非協力の中心的な理由とみられていることがわかる。「個人の秘密」は、前記の調査員を通じてのプライバシー侵害など統計調査の遂行自体にかかわる理由である。他方、「めんどくさい」は、統計調査に固有の問題ではない。統計調査のこの点が嫌だから断わりたいという忌避ではなく、多忙な日常の中で「とにかく余計なことはしたくない」という世帯の態度を調査員が感じとったのであろう。「めんどくさい」という住民の気持ちの表面化を抑えているのは、役所の実施する事業であるということや地域の有力者ともいべき人物によって担われていることなどであろう。本稿のはじめに触れたように、このような条件は失われつつあり、今後は「個人の秘密を知られたくない」人々を説得するためにも、統計自体の意義の強調以外に有効な手段は見当たらないように思われる。

「権利意識の強まり」は、最低の地点（矢部町）でも4割が肯定し、他の地点でも肯定するものが5～7割を占めている。この理由は、かなりの高率なので、役所という公的権威の衰退が「役所の事業（統計調査）に協力しない権利」意識の広範囲な浸透をもたらしていると調査員がみているといえよう。

4位の「調査の結果が悪用されるおそれがあるから」では、住民調査との差が大きい（約1割）ことが特徴点である。他の4つの理由では、住民調査の回答傾向は、国勢調査員とはほぼ同じであったが、「悪用」だけは、住民の方が肯定率が高かった。これは、79年調査の分析でも指摘されているように、調べられる側の憶測に調べる側が思い至らなかったためであろう。

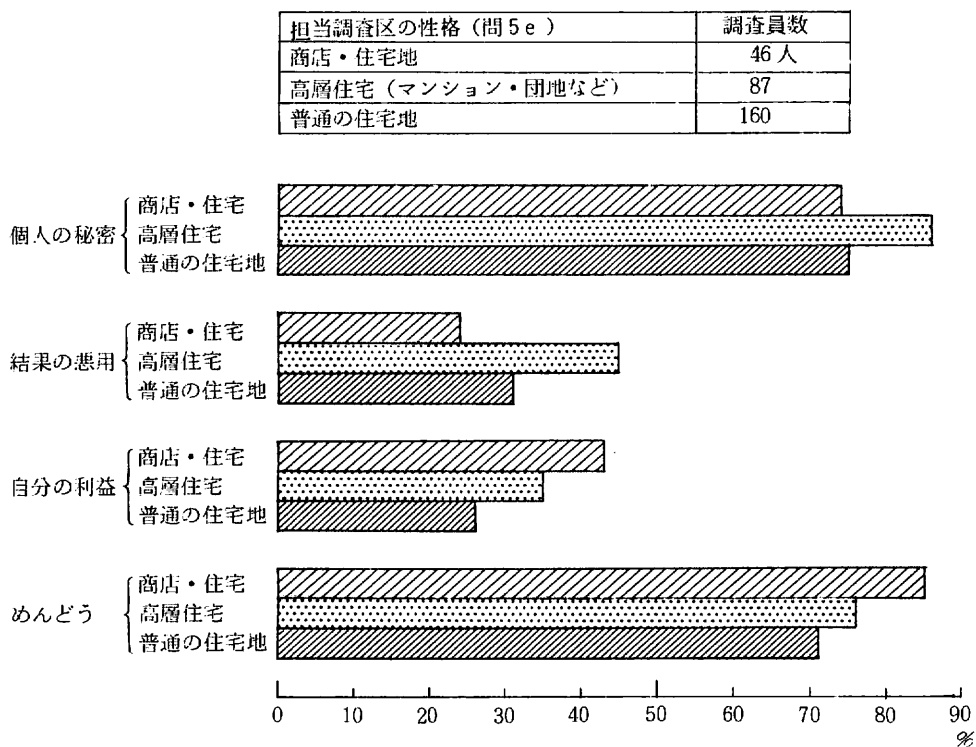
最後に、「自分の利益にならないから」では、国勢調査と79年調査との間に大きな差がみられる。これは、国勢調査の浸透度が相対的に高いこと、国勢調査の項目が一般的な内容で直接的な不利益をあまり連想させないこと、記入が容易であること、国勢調査以外の調査の大部分が標本調査であるために「何故ウチだけが」という不満が世帯に生じたことなどが作用しているためと思われる。

次に地点別の差異をみると、3つの理由で天明町が、もっとも高くなっている。農村部の中では都市との交流が比較的多い地域であること、住民の中には非協力的とみられる若い世代の心情に同年代の調査員が敏感であったこと、若い調査員は住民が苦情を口にしやすいことなどのためであろう。

逆に、各理由を通じて低率であるのは、高齢者が多い福岡市である。住民調査の場合に、どの理由でも農村部から都市部に向って肯定率が高くなっていたのは、対照的である。住民の感覚に調査員がそれほど敏感でなく、調査員自身の感じ方が混入したのかもしれない。

しかし、都市内を分割して調査員の回答を比較すると、様相は多少変化する。図12は、福岡市の調査員の回答を、担当調査区の性格（問5e 一数が多い3つのカテゴリーのみ）別に示したものである。「権利意識が強まったから」を除く4つの理由で大きな差がみられる。

図12 非協力の理由（問11 —— 福岡市・調査区の性格別）



「高層住宅（マンション・団地など）」では、プライバシー関連とみられる「個人の秘密」と「結果の悪用」が高率であるのに対して、「商店・住宅地」では主に多忙による理由—「自分の利益」, 「めんどろ」が他の地区より高い。このような回答は、従来関係者の間で指摘されていた傾向とも一致する。また、調査員を含む住民の生活形態（就業、住居など）と年齢層によって、住民の国勢調査についての関心の方向が異なるのは当然であろう。

次に、調査非協力の大きな理由となっている「個人の秘密を知られるから」をさらに検討してみよう。「知られたくない」内容の中で、どのような調査項目が特に嫌われているのだろうか。

図13は、特定の調査項目に対する世帯の反応をたずねた質問（問9—3）の集計結果である。質問文は、担当世帯にいやがられた項目を3つに限ってたずねる形式になっている。図では、図11と同じく指摘率が一番高かった地点と一番低かった地点の間を棒グラフで示した。また、住民調査の結果（このような項目についてたずねられたとき、「少しはウソがあるだろう」と「答えないだろう」の合計）を比較のために併記してある。

いやがられる順位は、両調査の質問文の用語が異なる「収入」（「収入額」）と「配偶者の有無」（「初婚か再婚か」）を除いて、両調査の間でほとんど差異はない。国勢調査員の1、2位になった「学歴」と「収入」の場合、記入形式は国勢調査票に用意されている選択枝から選ぶという容易なものである。それにもかかわらず、上位になったのは両項目自体の「いやがられた」程度が強いことを示している。「学歴」と「収入」の次に「いやがられた」のは、「仕事の種類」である。これら上位の3項目は、近隣の人々には容易に判断できる「続柄」、「住宅（の種類）」、「仕事の有無」などと比べて、世帯外からの観察によって知られる可能性が少なく、人格的な評価とも結びつけられがちな事柄である。他人には特に知られたくないと被調査世帯が考え、調査員もそのように感じたのであろう。

なお、「収入額」（就業構造基本調査など）と「収入（の種類）」（国勢調査）では、税金との関係や私事への立ち入り方について世帯に与える印象がかなり異なるので、回答に大きな差が生じたのは当然である。

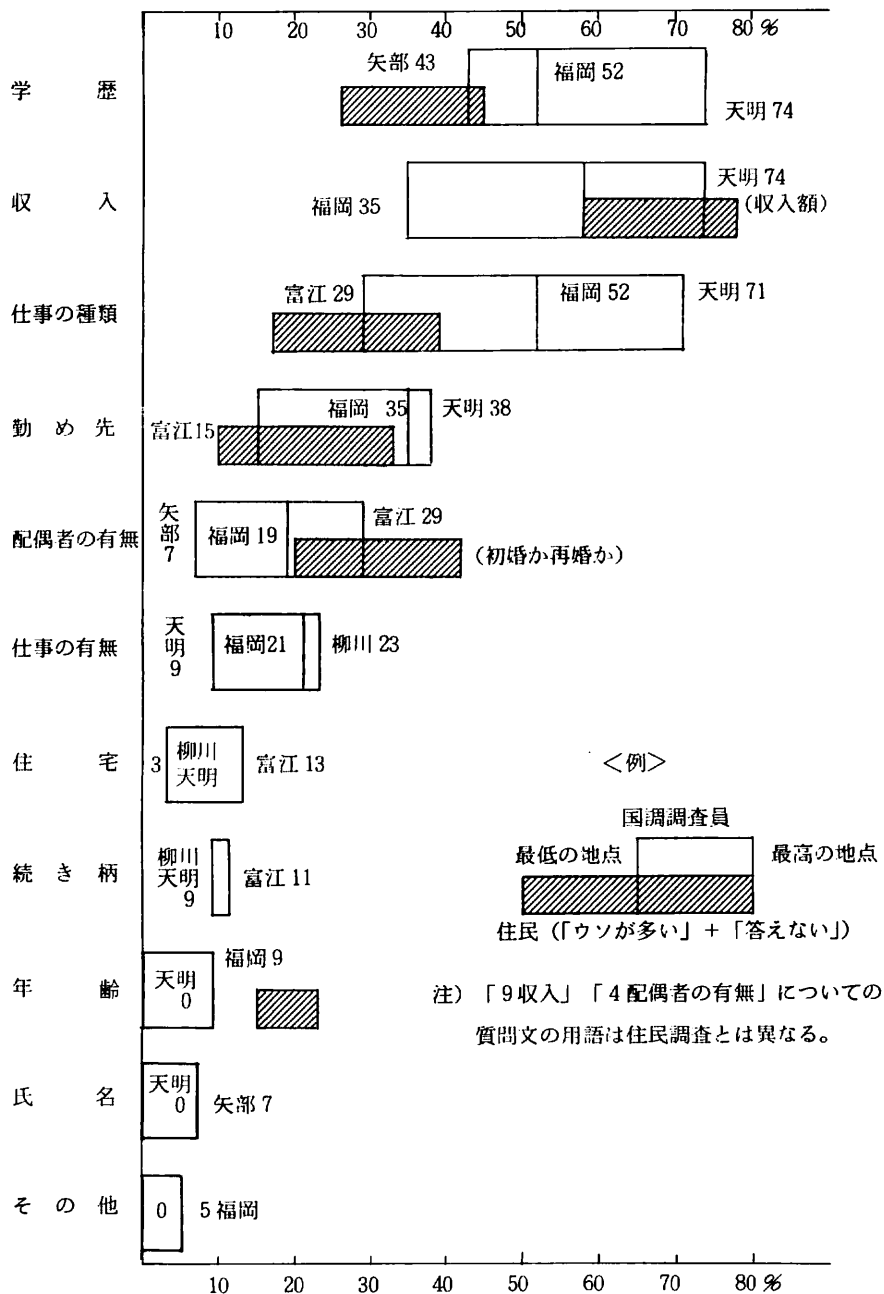
地点別では、天明町が全般に高率で、これは他の質問でもみられた傾向である。また、自町・自区外への通勤者が多い（表3参照）天明町、福岡市で「仕事の種類」「つとめ先」といった就業地が自宅付近でない人々に関連する項目が高率である。「収入」では、農村部の各地点で半数以上が「いやがられた」と答えており、国勢調査票の場合、「収入の種類」となっているので、農外収入の存在が明らかになることを世帯が嫌ったためであると考えられる。

次に、住民が調査をいやがる理由に関連して、世帯訪問時の反応をより具体的にたずねた

図13 いやがられた調査項目

問9-3 今回の国勢調査で最もいやがられたと思われる項目はどれですか？ つぎのなかから三つだけ選んで下さい。

1 氏名	2 続き柄	3 年齢	4 配偶者の有無
5 学歴	6 仕事の有無(あり, なし)	7 勤め先の名前	
8 仕事の種類	9 収入	10 住宅	11 その他〔記入〕

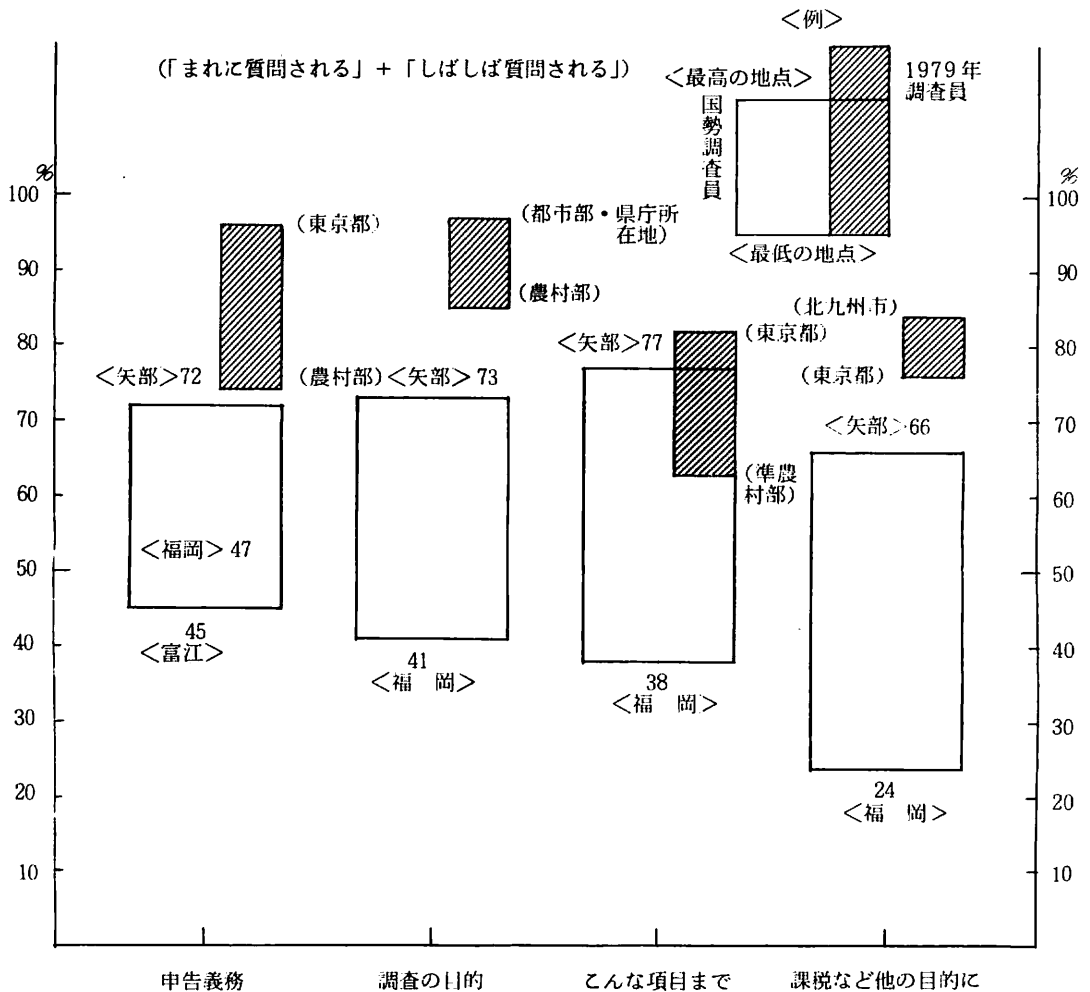


質問（問9-1）の回答をみてみよう（図14）。この質問でも、4点について、「2 まれに質問される」と「3 しばしば訪問される」の合計の最高の地点と最低の地点の間を棒グラフで示した。1979年調査員調査の結果（図14の斜線のグラフ）と比較すると、国勢調査

図14 世帯から受ける質問

問9-1a) 調査に行って、調査世帯から「かならず答えなければならないのか」というような質問を受けたことがどの程度ありましたか？

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 質問されたことはない | 2 まれに質問されることがある |
| 3 しばしば質問される | 4 その他〔記入〕 |



の方が4点とも低い率になっており、全般に国勢調査の方が訪問時のやりとりは少ないといえよう。これは、前に述べたように国勢調査は他の調査よりも住民に浸透しており、調査を受けることを当然視している住民が多いためであろう。

項目別にみると、申告義務に関するものが、各地点を通じて一番多く、二番目に調査の目的、以下、特定項目の必要性、課税など他の目的への利用の順になっている。申告義務についての質問は、少ない地点（福岡、富江）でも半数近い調査員が受けており、出来れば断わりたいという意識が住民の間でかなり広がっているとみてよいだろう。なお、「課税など他の目的への利用」が国勢調査で少ないのは、調査項目が一般的な内容なので、世帯側には（特に都市部では）、疑念が生じることが比較的少なかったと考えられる。

地点別では、矢部町が各項目を通じて1位になっている。調査員が役場関係者でなかったこと、非常に若い調査員構成であったことなどが、住民の質問・反応が多かった理由であろう。これに対して、福岡市、柳川市では各項目を通じて低い率になっている。年長の調査員に住民が質問などを口にしにくかったという他の地点とは逆の状況が考えられる。

では、このように調査世帯から質問を受けた時に、調査員はどのように対応しているのだろうか。図15は、どのような質問を受けた時に最も説明に困るかをたずねたものである（問9-2）。図では、説明に1番困るとされた比率が最高の地点と最低の地点の間を棒グラフで示した。1979年調査員調査の結果（斜線）と比較すると、4つの質問の間で1番困るとされた順位にはほとんど差異がない。

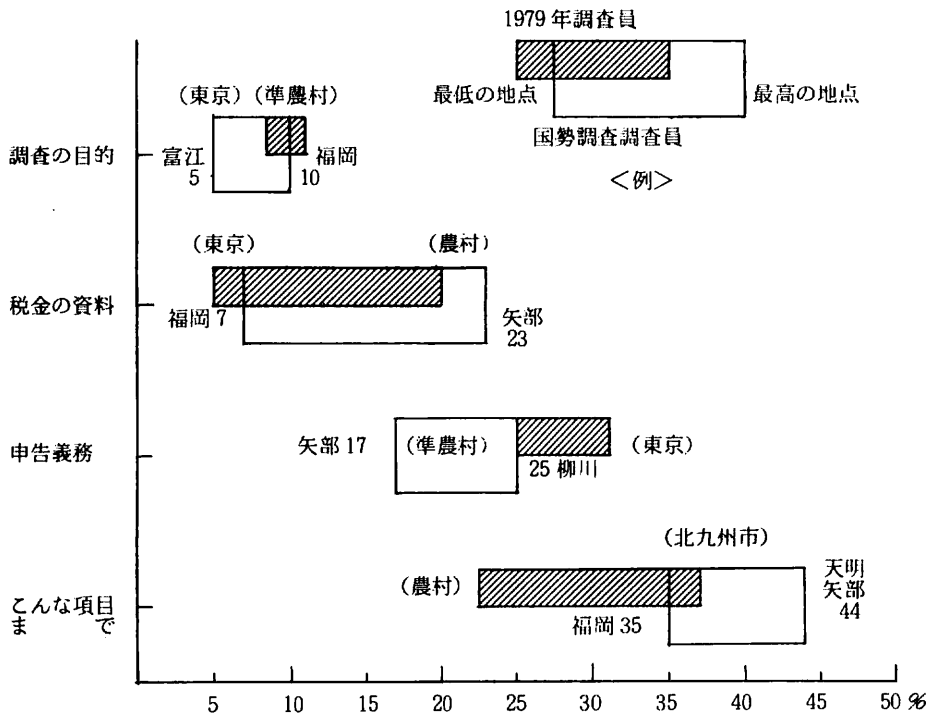
最も説明に困るとされた「なぜこんな項目まで調べる必要があるのか」は、各調査項目の調査目的・利用目的などの説明に関わるもので、この点が調査員にあまり徹底していなかったことを示している。また、質問をどの程度受けるかをたずねた前問（図14）では、比率の差異はこれほど大きくなかったので、「こんな項目まで」の質問が頻度の上では他の質問と変わらなくとも、特に説明しにくかったことがわかる。

地点別では、「税金の資料など他の目的に」が、農村部（2割前後）と福岡市（7%）との間で差が大きい。この質問は、頻度（図14）の場合も農村部3地点は6割以上で、福岡（24%）との差が大きかった。源泉徴収される雇用者が多い福岡との差は当然であろう。福岡では、「いやがられた調査項目」（図13）の「収入（の種類）」でも、5地点中最低であった。

図15 説明に困る質問

問9-2 では、どの質問を受けたとき最も説明に困りますか？説明の困難さの順に番号1番～4番)を記入して下さい。

- ・「かならず答えなければならないのか」
- ・「この調査は何のためにするのか」
- ・「なぜこんな項目まで調べる必要があるのか」
- ・「税金の資料など他の目的には本当に使わないのか」



3 調査員選任難をめぐって

これまでみてきた実査の困難化は、調査員選任難の直接的な原因になっていると考えられる。図16は、調査員希望者減少の理由をたずねた質問(問10)の集計結果である。質問文(一部を図16に再録)の形式としては、調査員一般についての問になっているが、本人のホンネに近いものも、ある程度現われているように思われる。図15などと同じく、肯定率が最高の地点と最低の地点の間を棒グラフで示した。

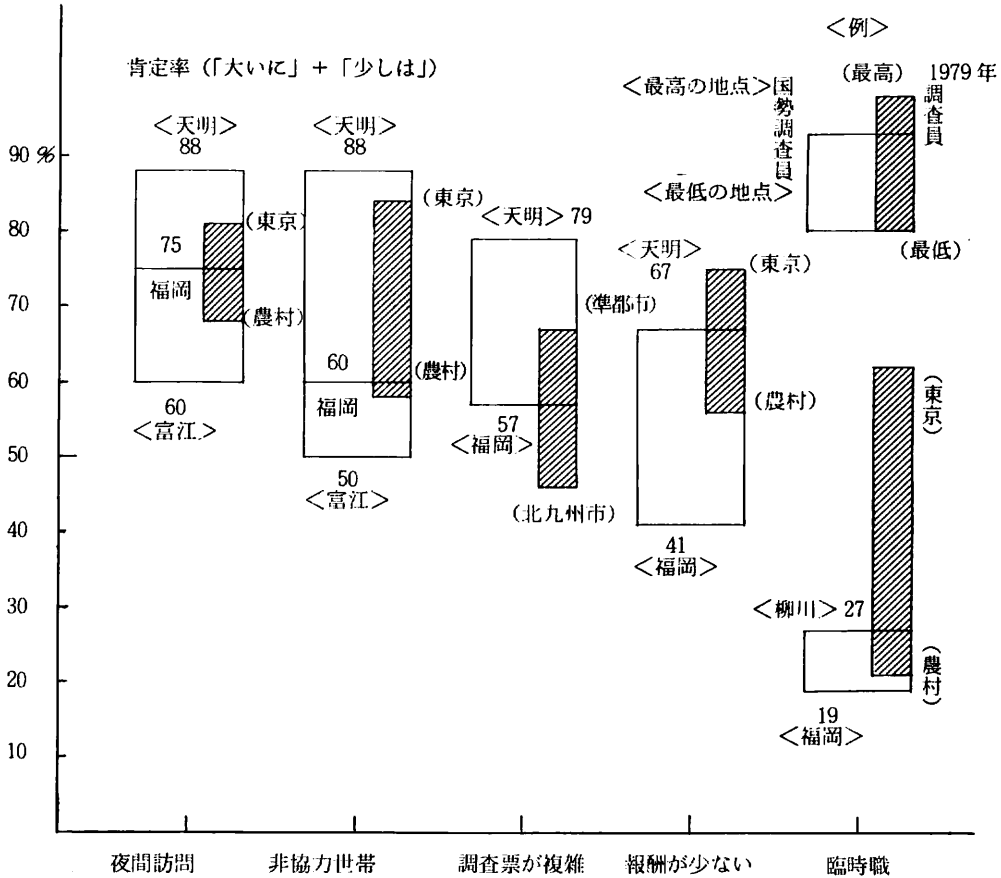
各理由の肯定率の順位は、1979年調査員調査の順位とほぼ共通である。各理由の率の高

図16 調査員希望者減少の理由

問10 最近、一般に統計調査員を希望する人が少なくなっているといわれています。次のことからはその理由としてどの程度でしょうか？

a) 「仕事のわりには報酬が少ないから」というのはどの程度の理由でしょうか？

1 大きな理由になっている	2 少しは理由になっている
3 あまり理由になっていない	4 全然理由になっていない



さも、ほとんど同水準だが、「報酬が少ないから」と「臨時職だから」では国勢調査員の方が低くなっている。「報酬」については、国勢調査の調査員では「頼まれたから仕方なく」という回答が多く、他の調査の場合ほど仕事の細かい条件を重視していないためであろう。「臨時職」の場合は、国勢調査は5年に1回のことなので、今回かぎりのつもりで従事している調査員が多いから、当然の回答傾向であろう。他の調査の場合、仕事の「継続性」はパートタイマー調査員には大きな関心事である。

他方、1979年調査員調査と比べて肯定率が高いのは、「調査票が複雑だから」だけであ

る。国勢調査の場合、統計調査にはじめて従事するものの比率が高い（図3）ので、不慣れであることがその原因であろう。実際には、他の調査と比較すると、国勢調査の調査票はもっとも簡単な部類に入る。

地点別にみると、天明町が「臨時職だから」を除く4つの理由で一番高い肯定率になっている。天明町では、「調査をことわる世帯増加の理由」（図11）や「いやがられた調査項目」（図13）でも高い肯定率・指摘率であった。このような調査遂行の困難性の認識が、若い調査員構成とあいまって、多数の調査員が希望者減少の各理由を肯定しているのであろう。天明町を含め農村部では役場職員が大部分なので「臨時職だから」の低率は当然であろう。

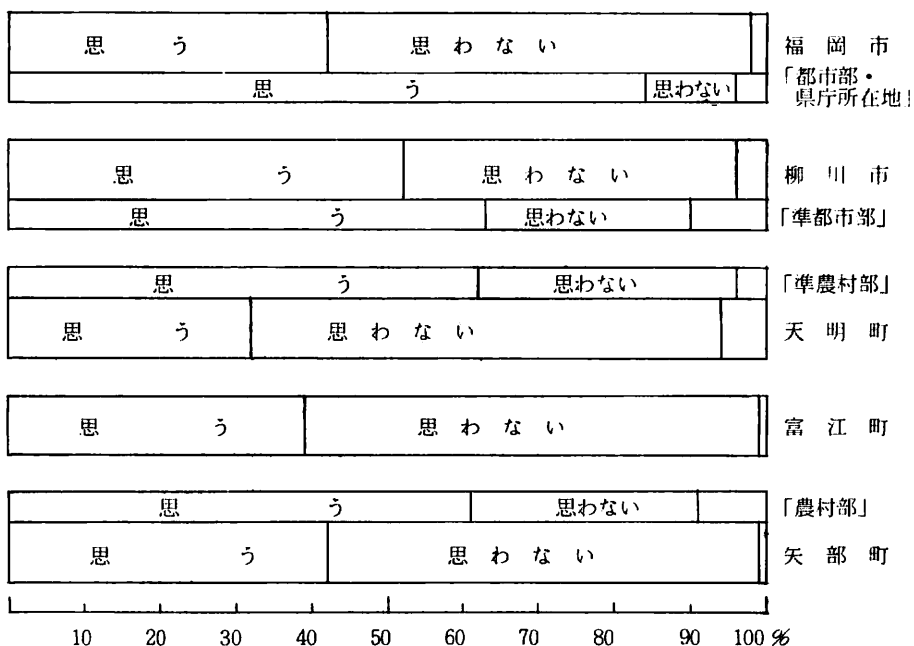
なお、5つの理由間の順位では、「夜間訪問」と「非協力世帯」が各地点を通じて高水準を示している。この2つの理由は、一番低い富江でも、6割と5割を占め、さきに紹介した実査の状況（図6,8）とも符合している。

図17 今後の調査従事の意向

問8 あなたは、今後も国の統計調査員をひきうけたいと思いますか？

1 思 う	2 思 わない
-------	---------

注) 1979年調査員調査の質問文は「…統計調査員を続けたい……」である。



さて、以上みてきたように今回の国勢調査を経験して、調査員たちは今後の調査従事をどのように考えているだろうか(図17)。なお、この質問(問8)の回答傾向は、慎重に検討する必要がある。つまり、一般に「ひきうけたくない」と答えることには心理的抵抗があること、この調査が間接的にではあれ役所を通じて行ったものであることを考慮しなければならぬ。したがって、「ひきうけたくない」という回答は、控え目な数字とみた方がよいように思われる。

図17をみると、ひきうけたいと「思わない」は、柳川市を除く各地点で6割前後を占めている。柳川市では、実査の中で一番問題視されていた夜間訪問の比率が低く(図8)、調査員をひきうけた動機の点でも「社会勉強」、「社会奉仕」などの積極的なものが他の地点より多かった(図4)ことが、その理由と考えられる。それにしても、他の地点では「ひきうけたいと思う」ものが、3~4割しかなく、次回以降の選任難が予想される。

特に、民間人を大量に選任しなければならない都市部では深刻であろう。

79年調査では、各地域とも「統計調査員を続けたい」という回答が国勢調査員よりも多く、都市部に向って多くなる傾向がみられる。一番低い「農村部」でも6割が「続けたい」と答えている。

79年調査での「都市部」の圧倒的な調査従事の希望は、パートタイマー調査員の就労希望の強さを示している。

この「今後調査員をひきうけたくない」理由を、他の質問とのクロス集計を手がかりにさぐってみよう。図18、19は、今後の調査従事の意向が対照的な福岡市と柳川市について、他の質問で特定の回答をした調査員に占める「ひきうけたくない」ものの比率を示している。

福岡市からみていくと、「ひきうけたくない」比率は、全体で57%であるのに対して、図18の中に掲げた各回答をした調査員の場合は、全体での比率を上廻っている。中でも「夜間訪問が調査員希望者減少の大きな理由になっている」(≒「自分も夜間訪問はとて嫌だ」と回答した調査員の場合には、今後従事したくない率が72%と最も高い。その次は、今回「担当した調査区が顔みしりの人が少ない地区」だった調査員で、69%が今後従事したくないと答えている。地縁的關係に頼れない場合(新興住宅地に多い)には、調査が難しいことを示している。その他の従事希望が低い回答は、非協力世帯の存在を指摘するもの、「統計に対して個人の秘密優先」のもの、調査の周知度が低かったとみているものなど、調査遂行の阻害条件として、これまで何度か指摘した点が含まれている。

柳川市では、今後調査に従事したくない比率は、全体では44%と福岡市より低いが、今後従事したくない率が高い他の質問の回答には、「非協力世帯」、「夜間訪問」など福岡市と共通のものが多い。事態が比較的良好な柳川市についても実査の問題点と調査員の心象には、福

図18 (福岡) 今後の調査従事を拒む比率

「どのカテゴリーでの拒否率が高いか」

問8 あなたは、今後も国の統計調査員をひきうけたいと思いますか？

1 思う	2 思わない
------	--------

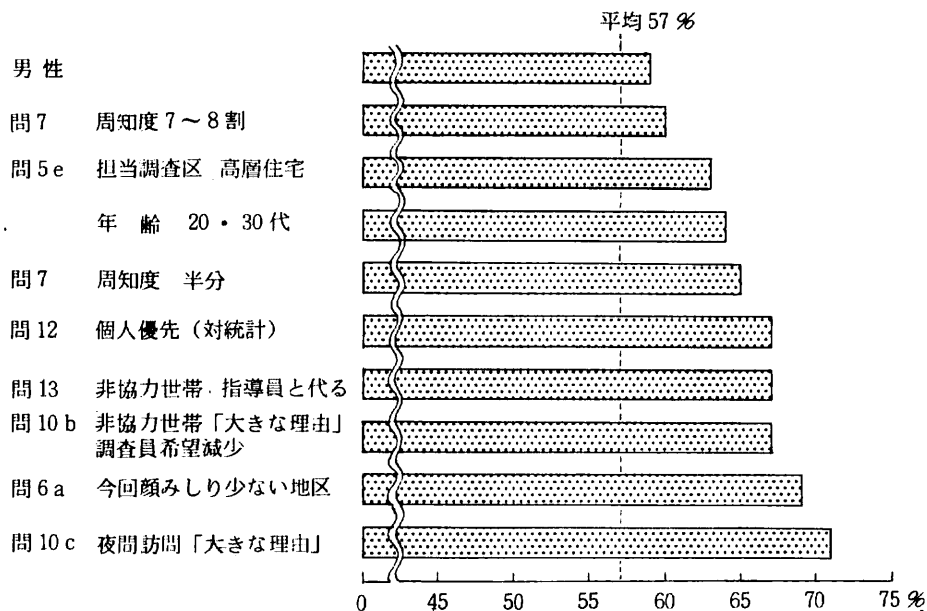
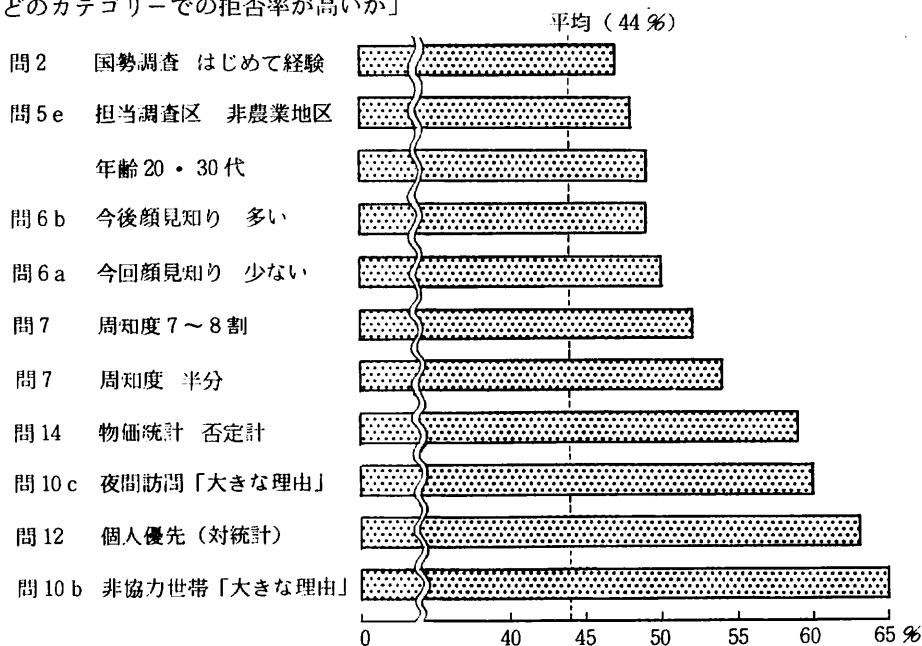


図19 (柳川) 今後の調査従事を拒む比率

「どのカテゴリーでの拒否率が高いか」



岡市と似通ったものがみられるといえよう。

次に、このような困難な状況が進行する中での調査員像をさぐる意味で、年齢別の回答を検討してみよう。図20、21は、年齢分布の幅が広い（表4参照）福岡市と柳川市について、3群（「20・30代」「40代」「50代以上」）に分けて回答を比較したものである。

両市に共通な傾向は、若い世代ほど仕事と報酬に対する不満が強く、統計の意義をあまり評価しておらず、実査においても非協力世帯に出会えば指導員に代ってもらうという消極的な傾向が見受けられる。

若い調査員が、住民にとって苦情を口にしやすい相手だったこと、経験が少ないものが多かったことや不満の表明が他の世代と比べて遠慮なしに行なわれがちであることも考慮しなければならぬが、大部分の質問に対する回答に消極的、否定的傾向が認められるので、注目する必要がある。

しかし、上記の回答傾向から若い世代の消極性を嘆くだけの世代論を導き出してはならない。むしろ過去の統計政策の結果が社会環境の影響を受けやすい若い世代の意識に刻印されているとみた方がよいのではないだろうか。

最後に、今回の調査結果を簡単に要約しておこう。国勢調査の実査の当事者である住民と調査員には、都市と農村との間で様々な差異があることが確認された（勿論、本稿の諸論点が、一地方の数地点についての調査結果によるものであるという制約をもつことはいうまでもない）。これらの差異は、住民の生活様式、生活体験、価値観、さらに地域の人間関係などの差異から当然のことといえよう。そして、国勢調査員も各地域で生活する住民の一人であることも見落してはならない。

国勢調査を含む多くの統計調査は、従来その基礎として必ずしもふさわしくない調査主体の権威と地域社会の人間関係に依拠して実施されてきた。しかし、本稿でみてきたようにこれらの諸条件は現在希薄化傾向にある。また、統計調査実施の阻害要因とみられる世帯規模の縮小、既婚婦人の就業率の上昇、職住の分離、プライバシー意識の高まりなどの現象は、今後も拡大し続けるとみなければならない。したがって、都市部での調査困難の深刻化と農村部の状況の「都市化」が予想される。また、調査員に選任される人々の意識にも、世代交代を通じて変化が生じつつある。

このような住民と調査員の「物理的」「精神的」な条件の変化の下で統計調査を完全な形で実施するためには、統計そのものの社会的意義を強調し、一般の国民の間に定着させることが今後さらに要請されよう。

図20 福岡市・年齢別の回答傾向

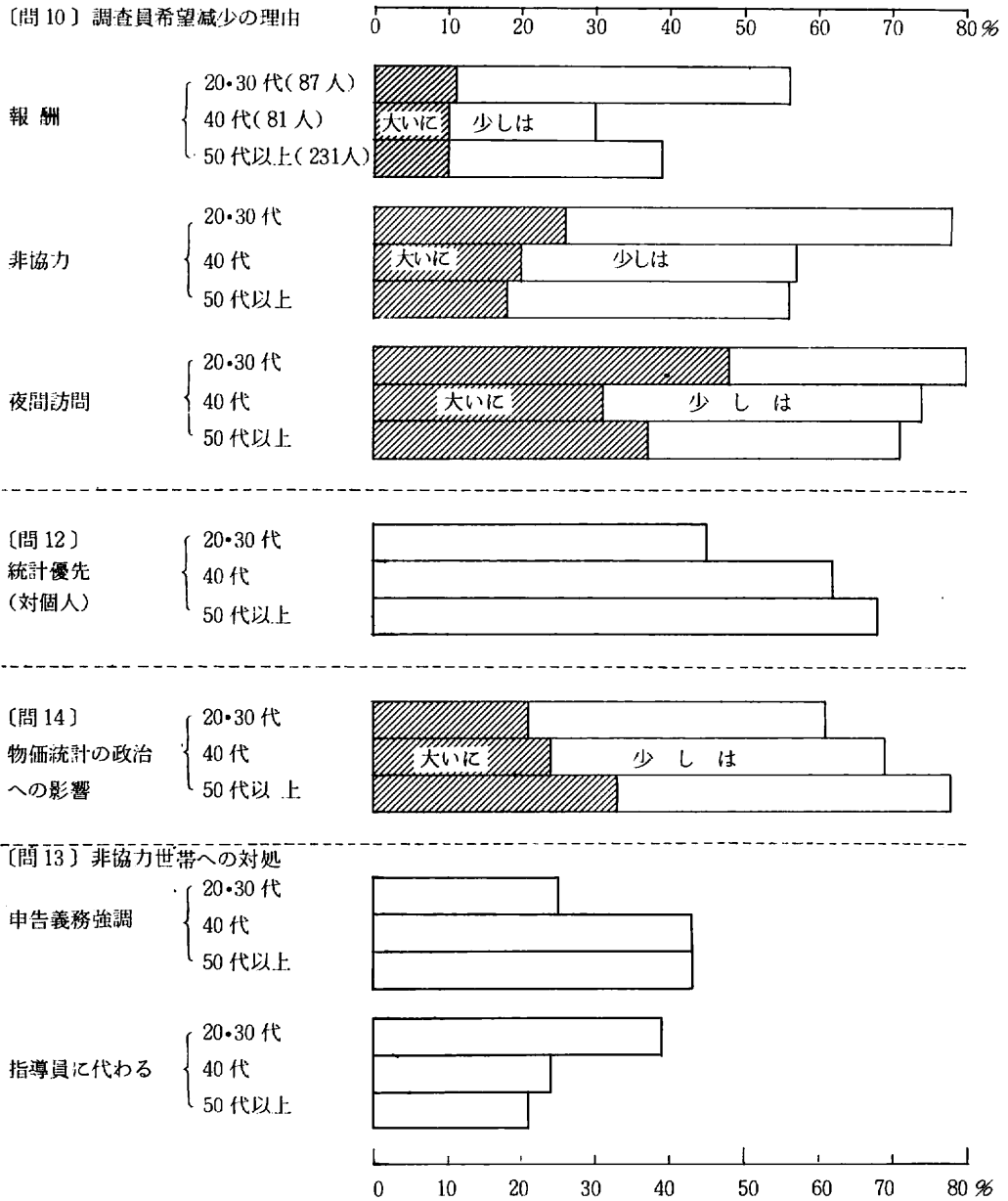
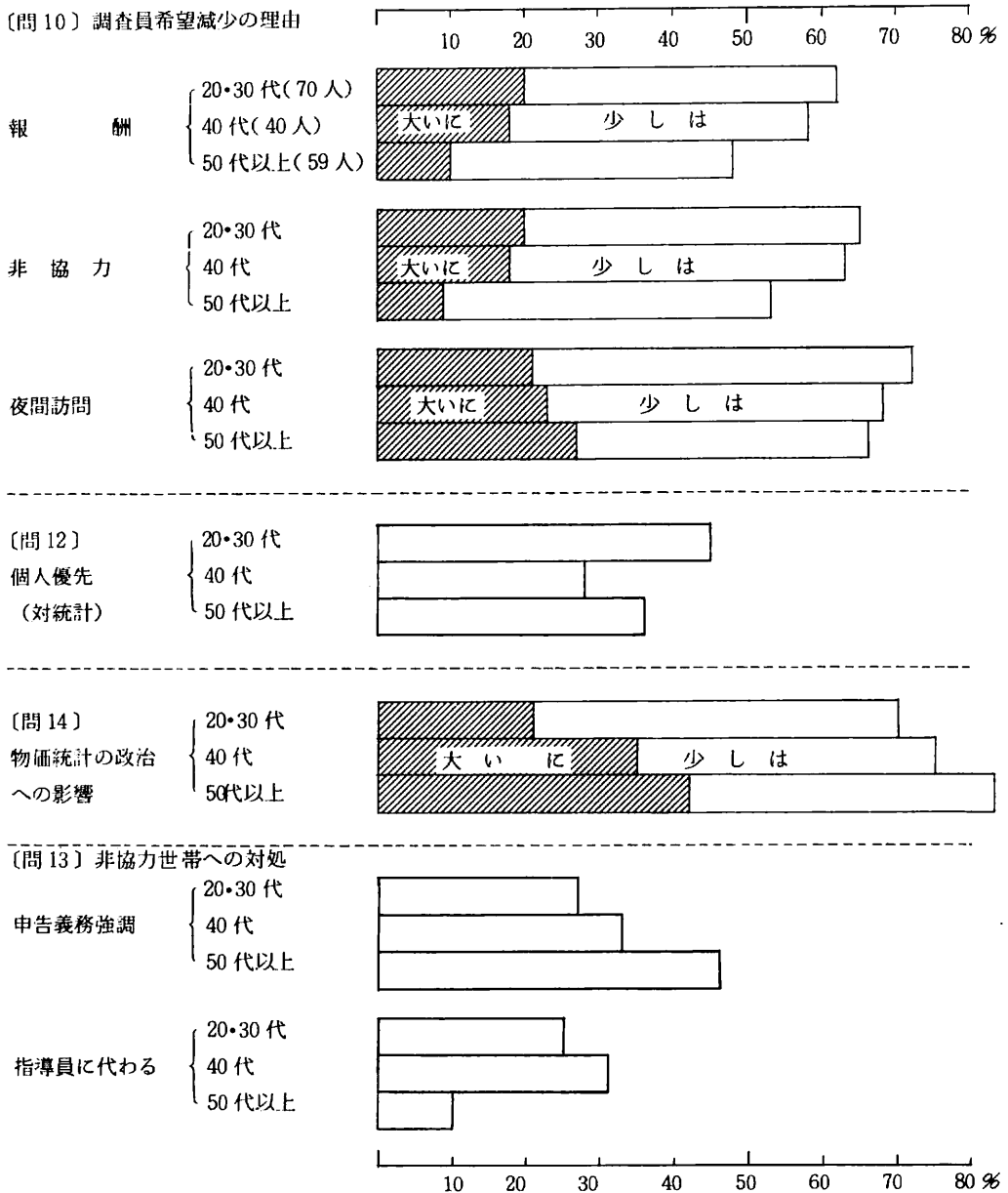


図21 柳川市・年齢別回答傾向



II 資料 昭和55年国勢調査員調査報告

1. 調査の主旨

これまでの歴史が示しているように、競争経済は絶え間のない景気変動と地域間、産業間に不均等発展をもたらし、社会生活における不安定要因を常に醸成している。したがって、現代国家はそのような不安定要因と社会的諸矛盾の発現を未然に防止して、体制の維持と経済の安定的な発展をはかるために、適切な政策を適時に実施しなければならない。そのためには、社会経済に関する情報、なかんずく統計の体系的な整備が不可欠である。

ところで、統計体系の整備については、統計制度上の措置がまず講じられねばならないこととは言うまでもないことであるが、それに劣らず重要なことは、統計調査にたいする国民の信頼と協力である。しかるに、経済成長がもたらした地域社会の変化は、政府がこれまで統計調査の実施にあたって依りどころとしてきた社会的諸関係を大きく変化させた。

昭和22年、統計法が統計制度と統計行政の根拠法として施行されたことによって、統計調査実施の法的基礎が確立したと考えられたが、30余年の歳月は統計関係者をして調査環境の悪化を事あるごとに嘆かせる事態を惹起している。国勢調査のたびごとに新聞や週刊紙誌にぎあわせるプライバシー問題は、そのいわば氷山の一角で、調査にたいする住民の非協力感情は、実査を担当する統計調査員にも反作用して、調査員問題を新たにひきおこし、統計調査の基盤をいよいよ悪化させている。

そうした動きにたいして行政当局が手をこまめいていたわけでは決してない。しかし調査環境の悪化をもたらす社会的要因はあまりにも大きく、それにたいする統計行政はあまりにもひ弱い。

われわれはこれまで文部省の科学研究補助金（昭和53・54年度総合・A）により、統計環境にかんする4本の実態調査を実施して、調査環境悪化の現状と動向を把握し、その素因を明らかにしようと努めてきた。こうしたわれわれの研究にたいして、トヨタ財団より昭和55年度研究助成金が交付された。この年は第13回国勢調査の実施年である。

本調査は今回の国勢調査を、実際に担当した現地調査員を対象に、調査員事項、調査区事項、および実査状況事項を、調査の実施日から比較的に新しい時期に調べたものである。

2. 調査の概況

(調査地点、調査方法、および回収状況)については次表参照。

調査方法と回収状況

調査対象・有効回収数	下記の市・町における昭和55年国勢調査従事調査員					
	調査地点	対象者の選定の方法	対象者数	有効回収数	回収率	
	福岡市 ¹⁾	中央区	無作為等間隔抽出	70名	51名	73%
		博多区	同上	83	65	78
		東区	同上	88	71	81
		西区	同上	165	134	81
		南区	同上	94	84	89
		計	—	500	405	81
	福岡県 柳川市	全員	210	171	81	
	長崎県 富江町	同上	66	62	94	
	熊本県 天明町	同上	49	34	69	
	熊本県 矢部町	同上	119	70	59	
配布・記入 ²⁾ 回収の方法	福岡市	調査員の自宅へ郵送		(記入・回収)自記・事務局へ郵送		
	その他	各役場より配布				
配布・回収の時期	1980年10月中旬～1981年1月上旬					

- (1) 福岡市の調査員は合計7,396名。各区毎の対象者数は、各区毎の調査員数に従って比例配分した。
- (2) 調査票には、切手貼済の返送用封筒を同封し、各人が直接、事務局(九州大学経済学部統計学研究室)へ郵送するよう依頼した。

3. 調査協力者 山田茂(九州大学助手)、西村善博(九大・大学院経済学研究科)

4. 集計表

(1) 国勢調査員調査対象者基本属性表

調査地点		福岡市						計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
		中央区	博多区	東区	西区	南区						
性別	男	62.7	76.9	62.0	55.2	40.5	57.8	71.9	91.9	73.5	74.3	
	女	37.3	20.0	38.0	44.8	58.3	41.5	27.5	8.1	23.5	24.3	
年齢	～ 29才	5.9	4.6	2.8	3.7	3.6	3.9	8.2	33.9	58.9	97.2	
	30 ～ 39才	5.9	2.8	21.2	14.9	31.0	17.5	33.3	33.9	38.2	1.4	
	40 ～ 49才	11.8	16.9	19.8	27.7	15.4	20.0	23.4	16.1	2.9	0.0	
	50 ～ 59才	19.6	35.4	26.8	20.2	20.2	23.7	25.8	14.6	0.0	0.0	
	60 ～	56.9	32.4	26.7	31.3	28.5	33.3	8.7	9.7	0.0	0.0	
居住年数 (問1)	0 ～ 4年	9.8	9.2	16.9	16.4	13.1	13.9	8.8	25.8	14.7	5.7	
	5 ～ 9年	9.8	13.8	25.4	23.1	19.0	19.5	10.5	12.9	5.9	0.0	
	10 ～ 14年	7.8	13.8	15.5	14.9	23.8	15.8	5.3	4.8	2.9	1.4	
	15 ～ 19年	9.8	7.7	16.9	8.2	9.5	10.1	8.2	8.1	0.0	10.0	
	20 ～ 24年	3.9	7.7	1.4	11.2	6.0	6.9	7.0	11.3	11.8	80.0	
	25 ～ 29年	15.7	6.2	8.5	7.5	13.1	9.6	8.2	3.2	38.2	1.4	
	30年～	41.2	41.5	15.5	17.9	15.5	23.7	50.9	33.9	26.5	0.0	
総経験回数 (問2)	1回	52.9	69.2	80.3	66.4	69.0	68.1	33.3	16.1	8.8	100.0	
	2回	39.2	18.5	14.1	26.1	28.6	25.0	36.8	53.2	20.6	0.0	
	3回	2.0	3.1	1.4	4.5	1.2	2.7	15.2	6.5	14.7	0.0	
	4回	3.9	3.1	1.4	1.5	0.0	1.7	3.5	9.7	26.5	0.0	
	5回	2.0	3.1	1.4	0.0	0.0	1.0	4.1	1.6	23.5	0.0	
	6回以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	4.8	2.9	0.0	
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
実数		51	65	71	134	84	405	171	62	34	70	

調査地点		福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
		中央区	博多区	東区	西区	南区					
き っ か け (問3)	「広報」をみて応募	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	経験者から誘われた	0.0	0.0	2.8	1.5	2.4	1.5	2.9	3.2	0.0	0.0
	職員からたのまれた	3.9	3.1	2.8	6.7	0.0	3.7	14.6	3.2	0.0	4.3
	直接依頼された	7.8	10.8	7.0	6.0	2.4	6.4	53.2	37.1	35.3	21.4
	自分が職員だから	2.0	0.0	4.2	2.2	1.2	2.0	27.5	51.6	61.8	0.0
	町内会から推せん	31.4	52.3	43.7	41.0	47.6	43.5	0.0	1.6	0.0	4.3
	町内会の役員だから	52.9	30.8	38.0	39.6	44.0	40.5	1.2	1.6	0.0	2.9
	その他〔記入〕	2.0	3.1	0.0	2.2	2.4	2.0	0.6	1.6	2.9	65.7
	無記入	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	1.4
合 計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
引 き 受 け た 動 機 (2つ選択・問4)	社会勉強	41.2	38.5	47.9	41.0	54.8	44.7	42.1	29.0	35.3	35.7
	仕方なく	52.9	63.1	54.9	48.5	48.8	52.6	57.3	71.0	70.6	57.1
	収入を得たい	5.9	7.7	12.7	11.9	14.3	11.1	15.8	19.4	50.0	28.6
	ひまができた	5.9	4.6	8.5	10.5	11.9	8.9	10.0	4.8	8.8	5.7
	社会奉仕	35.3	30.8	29.6	38.8	34.5	34.6	26.9	17.7	2.9	21.4
	その他〔記入〕	23.5	13.8	15.5	12.7	11.9	14.6	8.8	9.7	5.9	18.6
	累 計		164.7	158.5	169.0	163.4	176.2	166.4	160.8	151.6	173.5
実 数		51	65	71	134	84	405	171	62	34	70

調 査 地 点		福 岡 市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町	
		中央区	博多区	東区	西区	南区						
職 業 (問17)	農林水産業	0.0	1.5	2.8	4.5	1.2	2.5	1.2	1.6	0.0	54.3	
	自営の商工サービス	33.3	30.8	11.3	9.7	7.1	15.8	5.3	0.0	0.0	1.4	
	会 社 員	7.8	27.7	21.1	14.2	16.7	17.3	1.8	0.0	0.0	15.7	
	団 体 職 員	2.0	0.0	1.4	1.5	1.2	1.2	4.7	1.6	11.8	14.3	
	専 門 ・ 自 由 業	2.0	3.1	2.8	3.0	2.4	2.7	1.2	0.0	0.0	1.4	
	学 生	2.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	公 務 員	(市区町村) (都道府県) (その他)	2.0	3.1	1.4	1.5	1.2	1.7	60.8	77.4	79.4	0.0
			0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	0.7	1.8	4.8	5.9	1.4
			3.9	3.1	2.8	4.5	1.2	3.2	3.5	8.1	2.9	0.0
	主 婦	27.5	10.8	26.8	38.8	52.4	33.6	8.2	3.2	0.0	1.4	
	無 職	11.8	13.8	19.7	16.4	7.1	14.1	4.1	1.6	0.0	0.0	
	その他〔記入〕	7.8	4.6	5.6	4.5	6.0	5.4	7.0	1.6	0.0	10.0	
	無 記 入	0.0	0.0	0.0	1.5	1.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
実 数	51	65	71	134	84	405	171	62	34	70		

注) 各項目の質問文は、後掲の「3. 調査票 参照」

(2) 質問別集計結果表

問2 次の調査のうち、これまでに統計調査員になったことがあるものに○をつけて下さい。

(昭和50～55年。以下同じ) (経験回数)

〔国勢調査〕

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
今回はじめて	56.9	76.9	84.5	68.7	73.8	72.3	40.3	43.5	29.4	10.0
今回が2回目	43.1	21.5	15.5	31.3	26.2	27.4	59.7	54.8	70.6	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

(経験回数)

〔労働力調査〕

(同一年度内に複数回経験した場合も1回以上とした。)

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
0回	100.0	100.0	100.0	99.3	100.0	99.8	100.0	100.0	100.0	100.0
1回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2回以上	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

(経験回数)

〔商業統計調査〕

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
0回	96.1	87.7	97.2	97.8	98.8	96.1	88.9	88.7	76.5	10.0
1回	3.9	6.2	2.8	0.7	0.0	2.2	5.3	9.7	23.5	0.0
2回	0.0	6.2	0.0	1.5	1.2	1.7	5.3	1.6	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

(経験回数)

[農業センサス]

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
0回	1000	1000	1000	963	1000	988	918	500	147	1000
1回	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.7	7.6	40.3	41.2	0.0
2回	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.5	0.6	9.7	44.1	0.0
計	1000 (51)	1000 (65)	1000 (71)	1000 (134)	1000 (84)	1000 (405)	1000 (171)	1000 (62)	1000 (34)	1000 (70)

(経験回数)

[家計調査]

(同一年度内に複数回経験した場合も1回とした。)

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
0回	96.1	98.5	95.8	98.5	100.0	98.0	95.9	100.0	100.0	100.0
1回	3.9	0.0	2.8	1.5	0.0	1.5	2.9	0.0	0.0	0.0
2回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0
3回	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
4回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0
5回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6回	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
計	1000 (51)	1000 (65)	1000 (71)	1000 (134)	1000 (84)	1000 (405)	1000 (171)	1000 (62)	1000 (34)	1000 (70)

(経験回数)

[工業統計調査]

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
0回	1000	98.5	98.6	98.5	1000	99.0	87.1	83.9	97.1	1000
1回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	6.5	0.0	0.0
2回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0
3回	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.2	2.9	1.6	2.9	0.0
4回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	1.6	0.0	0.0
5回	0.0	1.5	1.4	0.7	0.0	0.7	2.3	4.8	0.0	0.0
6回	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0
計	1000 (51)	1000 (65)	1000 (71)	1000 (134)	1000 (84)	1000 (405)	1000 (171)	1000 (62)	1000 (34)	1000 (70)

(経験回数)

[就業構造基本調査]

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
0回	100.0	98.5	100.0	99.3	100.0	99.5	98.8	95.2	85.3	100.0
1回	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.2	1.2	3.2	11.8	0.0
2回	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	1.6	2.9	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

(経験回数)

[事業所統計調査]

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
0回	96.1	93.8	98.6	98.5	98.8	97.5	91.8	85.5	94.1	100.0
1回	3.9	6.2	1.4	0.0	1.2	2.0	3.5	11.3	5.9	0.0
2回	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.2	4.7	3.2	0.0	0.0
3回	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

(経験回数)

[その他の調査]

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
0回	96.1	100.0	95.8	98.5	98.8	98.0	96.0	96.8	91.2	100.0
1回	2.0	0.0	2.8	0.7	1.2	1.2	2.9	1.6	5.9	0.0
2回	0.0	0.0	1.4	0.7	0.0	0.5	0.6	0.0	2.9	0.0
3回	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	1.6	0.0	0.0
4回以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

(経験回数)

[全調査]

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1回	529	692	803	664	690	68.1	33.3	16.1	8.8	1000
2回	392	185	14.1	26.1	28.6	25.0	36.8	53.2	20.6	00
3回	20	3.1	1.4	4.5	1.2	2.7	15.2	6.5	14.7	00
4回	3.9	3.1	1.4	1.5	0.0	1.7	3.5	9.7	26.5	0.0
5回	20	3.1	1.4	0.0	0.0	1.0	4.1	1.6	23.5	0.0
6回以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	4.8	2.9	0.0
計	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問3 あなたはとういうきっかけで国勢調査員になりましたか？

つぎのどれか一つに○をつけて下さい。

1 自治体の「広報」をみて応募した	2 統計調査員の経験者から誘われた
3 身内や知りあいの自治体の職員からたのまれた	4 自治体から直接依頼された
5 自分が自治体の職員だから	6 町内会から推せんされた
7 町内会の役員だから	8 その他〔記入〕

(自治体とは都道府県、市区町村全てを含む)

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
2	0.0	0.0	2.8	1.5	2.4	1.5	2.9	3.2	0.0	0.0
3	3.9	3.1	2.8	6.7	0.0	3.7	14.6	3.2	0.0	4.3
4	7.8	10.8	7.0	6.0	2.4	6.4	53.2	37.1	35.3	21.4
5	2.0	0.0	4.2	2.2	1.2	2.0	27.5	5.1.6	6.1.8	0.0
6	31.4	52.3	43.7	41.0	47.6	43.5	0.0	1.6	0.0	4.3
7	52.9	30.8	38.0	39.6	44.0	40.5	1.2	1.6	0.0	2.9
8	2.0	3.1	0.0	2.2	2.4	2.0	0.6	1.6	2.9	65.7
無記入	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	1.4
計	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問4 調査員を引き受けた動機は次のどれに近いですか？ 二つだけ選んで下さい。

1 社会勉強になるから	2 頼まれたから仕方なく
3 多少とも収入を得たいから	4 ひまができたから
5 社会奉仕的な仕事をしたかったから	6 その他〔記入〕

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	412	385	479	410	548	44.7	42.1	29.0	35.3	35.7
2	529	63.1	549	48.5	48.8	52.6	57.3	71.0	70.6	57.1
3	5.9	7.7	12.7	11.9	14.3	11.1	15.8	19.4	50.0	28.6
4	5.9	4.6	8.5	10.5	11.9	8.9	10.0	4.8	8.8	5.7
5	35.3	30.8	29.6	38.8	34.5	34.6	26.9	17.7	2.9	21.4
6	23.5	13.8	15.5	12.7	11.9	14.6	8.8	9.7	5.9	18.6
無記入	35.3	41.5	31.0	36.6	23.8	33.6	39.2	48.4	26.5	32.9
計	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

〔動機の組み合わせ〕	
1	「収入」×「ひま」、 「ひま」のみ
2	「勉強」×「収入」、 「収入」×「奉仕」
3	「仕方なく」×「収入」
4	「仕方なく」×（「勉強」、 「ひま」、 「奉仕」、 「その他」）、 「仕方なく」のみ
5	「その他」

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	0.0	0.0	2.8	3.0	2.4	2.0	1.2	1.6	8.8	1.4
2	3.9	3.1	8.5	3.0	11.9	5.9	6.4	1.6	5.9	10.0
3	2.0	4.6	1.4	4.5	0.0	2.7	9.3	12.9	38.2	14.3
4	52.9	56.9	47.9	44.0	42.0	47.6	45.6	50.0	38.2	34.3
5	41.2	35.4	39.4	44.8	42.8	41.5	36.8	33.9	8.8	38.6
無記入	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.2	0.6	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問5 今回の国勢調査で、あなたが担当された調査区についておうかがいします。

a) 配布済の調査票の回収に要した訪問回数別の世帯数を記入して下さい。

訪問回数	1回で済み	2回	3回以上	計
回収世帯数	世帯	世帯	世帯	世帯

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1回	48.7	58.8	59.2	59.9	61.2	58.1	71.3	65.9	68.7	64.7
2回	31.3	21.1	24.0	23.0	22.9	24.0	19.2	25.9	25.1	25.8
3回以上	20.0	20.4	16.8	17.3	15.0	17.8	9.5	8.2	6.6	9.5
計(世帯)	1000 (996)	1000 (1496)	1000 (2091)	1000 (3207)	1000 (1503)	1000 (9293)	1000 (2565)	1000 (778)	1000 (951)	1000 (1781)
平均担当世帯数	66.2	63.9	61.4	64.0	57.2	62.4	52.4	47.0	63.1	38.5

問5 b) a) の回答欄で訪問回数が3回以上になった世帯について、理由別の内訳数を記入して下さい。

理由	留守のため			非協力の ため	その他の 理由	計
	単身世帯	共働き世帯	その他の世帯			
世帯数	世帯	世帯	世帯	世帯	世帯	世帯

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町	
	中央区	博多区	東区	西区	南区						
留守のため	単身世帯	44.0	36.8	57.9	36.4	41.7	42.0	13.4	15.5	4.9	23.5
	共働き世帯	25.0	36.4	21.4	36.3	30.2	29.3	48.0	24.7	70.4	34.9
	その他の世帯	10.4	15.1	11.7	13.6	18.1	13.8	23.7	51.0	16.9	7.8
	非協力のため	11.7	3.2	6.1	3.8	4.6	5.4	5.6	6.3	4.2	16.5
	その他の理由	11.4	8.5	2.9	9.9	5.8	8.0	9.3	2.5	3.5	17.3
計(世帯)	100.0 (677)	100.0 (846)	100.0 (734)	100.0 (1481)	100.0 (720)	100.0 (4458)	100.0 (853)	100.0 (239)	100.0 (142)	100.0 (255)	

問5 c) 担当世帯のうち、調査票を夜間(19時以降)回収した世帯は何世帯でしたか?

_____ 世帯

d) 密封用封筒を配布した世帯数を記入して下さい。

_____ 世帯

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
夜間回収世帯	996	1496	2091	3207	1503	9293	2565	778	951	1781
比率(%)	29.5	36.0	48.0	37.4	31.3	36.8	28.6	26.7	44.3	66.1
密封用封筒	57	25	120	77	67	346	67	48	1	6
比率(%)	1.7	0.6	2.8	0.9	1.4	1.4	0.7	1.6	0.0	0.2
総世帯数	3377	4156	4358	8571	4806	25268	8966	2915	2146	2694

問5 g)

(調査員一人当りの夜間回収世帯の割合)

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
0	15.7	15.4	12.7	10.4	13.1	12.8	19.9	32.3	5.9	10.0
1-19	33.3	29.2	15.5	33.6	39.3	30.9	30.4	30.6	20.6	7.1
20-39	19.6	13.8	15.5	17.2	14.3	16.1	18.7	14.5	26.5	5.7
40-59	15.7	7.7	21.1	9.7	11.9	12.6	16.4	4.8	17.6	11.4
60-79	9.8	13.8	15.5	14.2	7.1	12.3	8.2	6.5	14.7	21.4
80-99	2.0	10.8	7.0	3.7	8.3	6.2	2.9	1.6	11.8	21.4
100%	3.9	9.2	12.7	11.2	6.0	9.1	3.5	9.7	2.9	22.9
計	100.0 (51)	100.0 (65)	100.0 (71)	100.0 (134)	100.0 (84)	100.0 (405)	100.0 (171)	100.0 (62)	100.0 (34)	100.0 (70)

問5 e) あなたの担当調査区はどんなところでしたか?

01 農・林業地区	02 農・漁業地区	03 普通の農業地区
04 高層住宅(マンション・団地など)	05 狭小住宅密集地(モルタルアパートなど)	
06 新興住宅地	07 町工場・住宅地	08 商店・住宅地
09 商店街・繁華街・ビル街	10 普通の住宅地	
11 その他(記入)		

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	4.8	5.9	32.9
2	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.5	29.8	41.9	47.1	0.0
3	0.0	3.1	0.0	3.0	0.0	1.5	24.0	24.2	44.1	44.3
4	25.5	16.9	18.3	23.9	21.4	21.5	1.8	0.0	0.0	1.4
5	11.8	10.8	4.2	4.5	7.1	6.9	1.2	0.0	0.0	1.4
6	0.0	1.5	15.5	15.7	2.4	8.6	1.2	4.8	0.0	0.0
7	0.0	6.2	1.4	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
8	19.6	20.0	7.0	6.0	11.9	11.3	8.8	9.7	0.0	10.0
9	3.9	1.5	0.0	0.0	1.2	1.0	1.2	0.0	0.0	0.0
10	19.6	32.3	38.0	42.5	53.6	39.5	22.8	14.5	2.9	8.6
11	19.6	7.7	12.7	4.5	1.2	7.7	5.2	0.0	0.0	1.4
無記入	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.2	0.6	0.0	0.0	0.0
計	100.0 (51)	100.0 (65)	100.0 (71)	100.0 (134)	100.0 (84)	100.0 (405)	100.0 (171)	100.0 (62)	100.0 (34)	100.0 (70)

問6 a) あなたが担当した調査区は顔みしりの人が多い地区でしたか、それとも顔みしりの人が少ない地区でしたか？

1 顔みしりの多い地区	2 顔みしりの少ない地区
3 どちらともいえない	4 その他〔記入〕

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	72.5	73.8	66.2	67.2	73.8	70.1	80.7	72.6	88.2	64.3
2	9.8	7.7	14.1	14.2	7.1	11.1	10.5	24.2	5.9	21.4
3	17.6	16.9	16.9	17.9	15.5	17.0	6.4	3.2	5.9	10.0
4	0.0	1.5	1.4	0.0	2.4	1.0	2.3	0.0	0.0	4.3
無記入	0.0	0.0	1.4	0.7	1.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0 (51)	100.0 (65)	100.0 (71)	100.0 (134)	100.0 (84)	100.0 (405)	100.0 (171)	100.0 (62)	100.0 (34)	100.0 (70)

問6 b) 今後、担当調査区は顔みしりの人が多い地区をのぞみますか、それとも顔みしりの人が少ない地区をのぞみますか？

1 顔みしりの多い地区	2 顔みしりの少ない地区
3 どちらでもよい	

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	74.5	76.9	57.7	59.7	66.6	65.4	83.0	72.6	76.5	68.6
2	2.0	3.1	7.0	5.2	7.1	5.2	2.3	1.6	2.9	5.7
3	17.6	18.5	32.4	32.1	21.4	25.9	13.4	24.2	17.6	24.3
無記入	5.9	1.5	2.8	2.9	4.8	3.4	1.2	0.0	2.9	1.4
計	100.0 (51)	100.0 (65)	100.0 (71)	100.0 (134)	100.0 (84)	100.0 (405)	100.0 (171)	100.0 (62)	100.0 (34)	100.0 (70)

問7 あなたが訪問されたとき、国勢調査が実施されることをどのくらいの世帯が知っていましたか？

1 ほとんどの世帯が知っていた	2 7～8割の世帯が知っていた
3 半分ぐらいの世帯が知っていた	4 2～3割の世帯が知っていた
5 ほとんどの世帯が知らなかった	6 その他〔記入〕

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	62.7	60.0	56.3	63.4	63.1	61.5	48.5	59.7	52.9	44.3
2	25.5	27.7	23.9	17.9	26.2	23.2	25.7	17.7	38.2	35.7
3	7.8	6.2	9.9	12.7	5.9	9.1	15.2	14.5	5.9	14.3
4	0.0	4.6	2.8	3.0	2.4	2.7	5.2	3.2	2.9	2.9
5	3.9	1.5	0.0	2.2	1.2	1.7	2.3	3.2	0.0	1.4
6	0.0	0.0	4.2	0.0	1.2	1.0	1.8	0.0	0.0	0.0
無記入	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.5	0.6	0.0	0.0	1.4
計	100.0 (51)	100.0 (65)	100.0 (71)	100.0 (134)	100.0 (84)	100.0 (405)	100.0 (171)	100.0 (62)	100.0 (34)	100.0 (70)

問8 あなたは、今後も国の統計調査員をひきうけたいと思いますか？

1 思う	2 思わない
------	--------

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	35.3	41.5	43.7	42.5	34.5	40.0	52.6	38.7	32.4	41.4
2	62.7	56.9	53.5	55.2	61.9	57.5	44.4	59.7	61.8	57.1
無記入	2.0	1.5	2.8	1.4	3.6	2.2	2.9	1.6	5.9	1.4
計	100.0 (51)	100.0 (65)	100.0 (71)	100.0 (134)	100.0 (84)	100.0 (405)	100.0 (171)	100.0 (62)	100.0 (34)	100.0 (70)

問9-1 a) 調査に行つて、調査世帯から「かならず答えなければならないのか」というような質問を受けたことがどの程度ありましたか？

1 質問されたことはない	2 まれに質問されることがある
3 しばしば質問される	4 その他〔記入〕

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	49.0	56.9	50.7	50.0	46.4	50.4	50.3	54.8	35.3	28.6
2	45.1	38.5	40.8	39.5	45.2	41.5	43.3	33.9	58.8	52.9
3	3.9	4.6	4.2	7.5	4.8	5.4	3.5	11.3	2.9	18.6
4	2.0	0.0	2.8	1.5	3.6	2.0	1.7	0.0	2.9	0.0
無記入	0.0	0.0	1.4	1.5	0.0	0.7	1.2	0.0	0.0	0.0
計	100.0 (5.1)	100.0 (6.5)	100.0 (7.1)	100.0 (13.4)	100.0 (8.4)	100.0 (40.5)	100.0 (17.1)	100.0 (6.2)	100.0 (3.4)	100.0 (7.0)

問9-1 b) 「この調査は何のためにするのか」というような質問はどうでしたか？

1 質問されたことはない	2 まれに質問されることがある
3 しばしば質問される	4 その他〔記入〕

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	62.7	53.8	59.2	56.0	57.1	57.3	44.4	38.7	29.4	27.1
2	25.5	41.5	35.2	35.1	39.3	35.8	45.6	40.3	52.9	54.3
3	5.9	4.6	2.8	6.7	3.6	4.9	7.6	21.0	17.6	18.6
4	3.9	0.0	2.8	1.5	0.0	1.5	1.2	0.0	0.0	0.0
無記入	2.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0
計	100.0 (5.1)	100.0 (6.5)	100.0 (7.1)	100.0 (13.4)	100.0 (8.4)	100.0 (40.5)	100.0 (17.1)	100.0 (6.2)	100.0 (3.4)	100.0 (7.0)

問9-1 c) 「なぜこんな項目まで調べる必要があるのか」というような質問はどうでしたか？

1 質問されたことはない	2 まれに質問されることがある
3 しばしば質問される	4 その他〔記入〕

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	56.9	56.9	62.0	58.2	63.1	59.5	48.5	30.6	32.4	22.9
2	33.3	36.9	31.0	34.3	31.0	33.3	41.5	37.1	47.1	58.6
3	5.9	4.6	2.8	5.2	4.8	4.7	8.2	30.6	17.6	18.6
4	3.9	1.5	2.8	0.0	1.2	1.5	1.2	1.6	2.9	0.0
無記入	0.0	0.0	1.4	2.2	0.0	1.0	0.6	0.0	0.0	0.0
計	100.0 (5.1)	100.0 (6.5)	100.0 (7.1)	100.0 (13.4)	100.0 (8.4)	100.0 (40.5)	100.0 (17.1)	100.0 (6.2)	100.0 (3.4)	100.0 (7.0)

問9-1 d) 「税金の資料など他の目的には本当に使わないのか」というような質問はどうでしたか？

1 質問されたことはない	2 まれに質問されることがある
3 しばしば質問される	4 その他(記入)

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	68.6	70.8	77.5	73.9	73.8	73.3	51.5	38.7	23.5	32.9
2	27.5	23.1	14.1	23.1	21.4	21.7	37.4	40.3	47.1	50.0
3	0.0	4.6	2.8	2.2	2.4	2.5	6.4	19.4	26.5	15.7
4	3.9	1.5	5.6	0.0	1.2	2.0	4.1	1.6	2.9	1.4
無記入	0.0	0.0	0.0	0.7	1.2	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0
計	100.0 (51)	100.0 (65)	100.0 (71)	100.0 (134)	100.0 (84)	100.0 (405)	100.0 (171)	100.0 (62)	100.0 (34)	100.0 (70)

問9-2 では、どの質問を受けたとき最も説明に困りますか？ 説明の困難さの順に番号(1番～4番)を記入して下さい。

<input type="text"/>	「かならず答えなければならないのか」
----------------------	--------------------

説明の困難さの順位	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
無記入	35.3	26.2	28.2	25.4	20.2	26.2	18.7	17.7	11.8	2.9
1	25.5	20.0	23.9	20.2	28.6	23.2	24.5	17.7	23.5	17.1
2	15.7	30.8	22.5	22.4	25.0	23.5	28.1	30.6	29.4	20.0
3	13.7	9.2	16.9	20.2	19.0	16.8	16.4	21.0	20.6	32.9
4	9.8	13.8	8.5	11.9	7.1	10.4	12.3	12.9	14.7	27.1
計	100.0 (51)	100.0 (65)	100.0 (71)	100.0 (134)	100.0 (84)	100.0 (405)	100.0 (171)	100.0 (62)	100.0 (34)	100.0 (70)

問9-2

<input type="text"/>	「この調査は何のためにするのか」
----------------------	------------------

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
無記入	39.2	26.2	26.8	26.1	20.2	26.7	17.0	17.7	8.8	2.9
1	5.9	7.7	15.5	11.9	7.1	10.1	8.8	4.8	8.8	12.9
2	15.7	9.2	21.1	13.4	16.7	15.1	11.1	14.5	26.5	21.4
3	23.5	33.8	18.3	25.4	29.8	26.2	34.5	24.2	23.5	18.6
4	15.7	23.1	18.3	23.1	26.2	22.0	28.6	38.7	32.4	44.3
計	100.0 (51)	100.0 (65)	100.0 (71)	100.0 (134)	100.0 (84)	100.0 (405)	100.0 (171)	100.0 (62)	100.0 (34)	100.0 (70)

問9-2

・ 「なぜこんな項目まで調べる必要があるのか」

説明の困難 さの順位	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
無記入	353	262	282	254	190	259	181	177	118	29
1	353	323	296	373	381	351	368	403	441	443
2	196	231	183	246	250	227	281	274	235	329
3	98	185	155	97	131	128	140	97	147	157
4	00	00	85	30	48	35	29	48	59	43
計	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問9-2

・ 「税金の資料など他の目的には本当に使わないのか」

説明の困難 さの順位	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
無記入	392	262	282	254	190	264	181	177	88	29
1	39	138	70	52	83	74	135	194	176	229
2	98	108	99	142	131	121	146	97	88	229
3	137	123	197	186	179	170	164	274	294	300
4	333	369	352	366	417	370	374	258	353	214
計	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
	(51)	(65)	(71)	(84)	(405)	(171)	(171)	(62)	(34)	(70)

問9-3 今回の国勢調査で最もいやがられたと思われる調査項目はどれですか？ つぎのなかから三つだけ選んで下さい。

1 氏名	2 続柄	3 年齢	4 配偶者の有無	5 学歴
6 仕事の有無(あり, なし)	7 勤め先の名前	8 仕事の種類	9 収入	
10 住宅	11 その他【記入】			

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	20	92	14	30	00	3.0	0.6	1.6	0.0	7.1
2	5.9	18.5	4.2	7.5	13.1	9.6	8.8	11.3	8.8	10.0
3	11.8	13.8	7.0	8.2	4.8	8.6	3.5	6.5	0.0	2.9
4	15.7	20.0	9.9	14.9	33.3	18.8	12.3	29.0	14.7	7.1
5	41.2	52.3	54.9	55.2	51.2	52.1	60.2	61.3	73.5	42.9
6	17.6	15.4	28.2	18.7	22.6	20.5	23.4	19.4	8.8	21.4
7	37.3	29.2	36.6	31.3	44.0	35.3	37.4	14.5	38.2	28.6
8	45.1	47.7	60.6	52.2	53.6	52.4	68.4	29.0	70.6	48.6
9	27.5	36.9	35.2	39.6	28.6	34.6	50.3	67.7	64.7	74.3
10	2.0	3.1	1.4	3.0	4.8	3.0	2.9	12.9	2.9	4.3
11	5.9	7.7	5.6	2.2	6.0	4.9	4.1	1.6	0.0	1.4
無記入	88.2	46.2	54.9	64.2	38.1	57.3	28.1	45.2	17.6	51.4
計	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問10 最近、一般に統計調査員を希望する人が少なくなっているといわれています。次のことからその理由としてどの程度でしょうか？

a) 「仕事のわりには報酬が少ないから」というのはどの程度の理由でしょうか？

1 大きな理由になっている	2 少しは理由になっている	3 あまり理由になっていない
4 全然理由になっていない	5 その他【記入】	

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	13.7	9.2	12.7	7.5	10.7	10.1	15.8	19.4	11.8	7.1
2	19.6	27.7	33.8	32.8	36.9	31.4	40.3	38.7	55.9	45.7
3	39.2	43.1	35.2	41.0	36.9	39.3	35.1	35.5	29.4	38.6
4	17.6	13.8	12.7	15.7	14.3	14.8	8.2	6.5	2.9	7.1
5	5.9	6.2	4.2	0.7	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0
無記入	3.9	0.0	1.4	2.2	0.0	1.5	0.6	0.0	0.0	1.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問10 b) 「非協力世帯が多いから」というのはどの程度の理由でしょうか？

1 大きな理由になっている	2 少しは理由になっている	3 あまり理由になっていない
4 全然理由になっていない	5 その他〔記入〕	

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	176	16.9	26.8	15.7	25.0	20.0	15.2	16.1	14.7	25.7
2	45.1	43.1	33.8	42.5	36.9	40.2	45.6	33.9	73.5	51.4
3	21.6	26.2	25.4	26.1	22.6	24.7	25.2	32.3	11.8	17.1
4	5.9	7.7	4.2	11.9	10.7	8.9	10.5	14.5	0.0	4.3
5	2.0	1.5	5.6	0.7	1.2	2.0	0.6	1.6	0.0	0.0
無記入	7.8	4.6	4.2	2.9	3.6	4.2	2.9	1.6	0.0	1.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問10 c) 「夜間訪問をしなければならないから」というのはどの程度の理由でしょうか？

1 大きな理由になっている	2 少しは理由になっている	3 あまり理由になっていない
4 全然理由になっていない	5 その他〔記入〕	

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	39.2	35.4	31.0	35.1	45.2	37.0	23.4	19.4	67.6	32.9
2	31.4	30.8	46.5	39.6	35.7	37.5	45.6	40.3	20.6	50.0
3	15.7	21.5	9.9	11.9	13.1	13.8	21.7	27.4	11.8	8.6
4	3.9	4.6	7.0	8.2	2.4	5.7	5.8	12.9	0.0	4.3
5	0.0	3.1	1.4	1.5	1.2	1.5	1.2	0.0	0.0	1.4
無記入	9.8	4.6	4.2	3.7	2.4	4.4	2.3	0.0	0.0	2.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問10 d) 「調査員の仕事が臨時的（臨時職）だから」というのはどの程度の理由でしょうか

1 大きな理由になっている	2 少しは理由になっている	3 あまり理由になっていない
4 全然理由になっていない	5 その他（記入）	

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	7.8	4.6	7.0	3.7	6.0	5.4	4.7	6.5	2.9	10.0
2	13.7	15.4	12.7	16.4	10.7	14.1	22.8	17.7	20.6	15.7
3	41.2	47.7	43.7	39.6	45.2	43.0	44.4	41.9	50.0	48.6
4	27.5	26.2	31.0	35.1	32.1	31.4	24.6	29.0	26.5	24.3
5	0.0	0.0	2.8	0.7	2.4	1.2	0.6	1.6	0.0	0.0
無記入	9.8	6.2	2.8	4.4	3.6	5.0	2.9	3.2	0.0	1.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問10 e) 「調査票が複雑だから」というのはどの程度の理由でしょうか？

1 大きな理由になっている	2 少しは理由になっている	3 あまり理由になっていない
4 全然理由になっていない	5 その他（記入）	

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	21.6	13.8	19.7	20.1	16.7	18.5	25.1	35.5	26.5	27.1
2	39.2	32.3	39.4	39.5	42.9	39.0	38.6	41.9	52.9	38.6
3	21.6	32.3	25.4	26.1	27.3	26.7	22.8	16.1	17.6	30.0
4	7.8	13.8	9.9	9.7	9.5	10.1	11.1	3.2	2.9	2.9
5	0.0	1.5	1.4	0.7	1.2	1.0	0.0	1.6	0.0	0.0
無記入	9.8	6.2	4.2	3.7	2.4	4.7	2.3	1.6	0.0	1.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(134)	(71)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問11 最近、調査をことわる世帯がふえているといわれています。つぎのことがらは、調査をことわる世帯がふえた理由としてどの程度大きいと思いますか？

a) 「個人の秘密を知られたくないから」というのはどの程度の理由でしょうか？

1 大きな理由になっている	2 少しは理由になっている	3 あまり理由になっていない
4 全然理由になっていない	5 その他〔記入〕	

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	412	338	423	351	404	380	339	339	441	457
2	294	338	366	455	393	388	427	403	441	343
3	196	200	99	112	131	138	164	177	118	171
4	39	46	56	60	24	47	47	65	00	29
5	00	15	28	07	24	15	06	00	00	00
無記入	59	62	28	14	24	32	18	16	00	00
計	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問11 b) 「調査の結果が悪用されるおそれがあるから」というのはどの程度の理由でしょうか？

1 大きな理由になっている	2 少しは理由になっている	3 あまり理由になっていない
4 全然理由になっていない	5 その他〔記入〕	

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	98	00	56	52	71	54	53	129	118	171
2	157	338	268	306	298	284	361	306	382	414
3	510	462	394	440	476	452	357	403	441	286
4	176	123	197	164	107	153	210	129	59	100
5	00	15	28	07	12	12	00	16	00	14
無記入	59	62	56	29	36	45	18	16	00	14
計	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問11 e) 「調査に協力しても直接自分の利益にならないから」というのはどの程度の理由でしょうか？

1 大きな理由になっている	2 少しは理由になっている	3 あまり理由になっていない
4 全然理由になっていない	5 その他〔記入〕	

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	7.8	9.2	8.5	8.2	9.5	8.6	10.0	12.9	8.8	7.1
2	21.6	29.2	22.5	19.4	22.6	22.5	25.7	19.4	23.5	24.3
3	37.3	38.5	36.6	38.1	42.9	38.8	35.7	41.9	61.8	42.9
4	27.5	16.9	28.2	29.9	22.6	25.7	26.3	24.2	5.9	24.3
5	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0
無記入	5.9	6.2	4.2	2.9	2.4	3.9	1.8	1.6	0.0	1.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問11 d) 「めんどくさいから」というのはどの程度の理由でしょうか？

1 大きな理由になっている	2 少しは理由になっている	3 あまり理由になっていない
4 全然理由になっていない	5 その他〔記入〕	

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	33.3	21.5	26.8	27.6	31.0	27.9	34.5	43.5	47.1	32.9
2	43.1	55.4	46.5	44.0	40.5	45.4	46.2	30.6	47.1	41.4
3	11.8	9.2	15.5	13.4	16.7	13.6	11.1	19.4	5.9	12.9
4	5.9	4.6	7.0	11.9	10.7	8.9	5.8	4.8	0.0	10.0
5	0.0	3.1	1.4	0.7	0.0	1.0	0.6	0.0	0.0	1.4
無記入	5.9	6.2	2.8	2.2	1.2	3.2	1.8	1.6	0.0	1.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問11 e) 「個人の権利意識が強まったから」というのはどの程度の理由でしょうか？

- | | | |
|---------------|---------------|----------------|
| 1 大きな理由になっている | 2 少しは理由になっている | 3 あまり理由になっていない |
| 4 全然理由になっていない | 5 その他〔記入〕 | |

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	13.7	15.4	12.7	14.2	11.9	13.6	8.2	19.4	17.6	1.4
2	29.4	46.2	45.1	41.8	44.0	42.0	43.3	29.0	52.9	41.4
3	33.3	24.6	28.2	26.9	31.0	28.4	39.2	46.8	26.5	42.9
4	13.7	6.2	11.3	12.7	9.5	10.9	7.0	3.2	2.9	12.9
5	2.0	1.5	0.0	1.5	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
無記入	7.8	6.2	2.8	2.9	2.4	3.9	2.3	1.6	0.0	1.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問12 国の統計調査と個人の秘密との間の関係について次の2つの意見がありますが、あなたはどちらに賛成ですか？

- | |
|---|
| 1 より正しい統計をつくるためには、個人の身上や生活内容にふれることがあってもしかたがない |
| 2 正しい統計をつくるためであっても、個人の身上や生活内容にふれるべきではない |
| 3 その他〔記入〕 |

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	68.6	69.2	66.2	58.9	51.2	61.5	57.3	35.5	26.5	52.9
2	31.4	24.6	29.6	37.3	41.7	34.1	38.0	56.5	73.5	31.4
3	0.0	3.1	2.8	0.7	3.6	2.0	2.9	6.5	0.0	14.3
無記入	0.0	3.1	1.4	3.0	3.6	2.5	1.8	1.6	0.0	1.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問13 くりかえし訪問して、調査の目的や趣旨を説明しても協力が得られない時、あなたならどうしますか？
つきの中から一つ選んで下さい。

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 自分の立場を説明して頼みこむ | 2 申告義務を強調して説得する |
| 3 指導員に代ってもらう | 4 その他（具体的に） |

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	25.5	400	352	224	16.7	26.7	35.1	323	324	37.1
2	47.1	385	282	41.8	34.5	38.0	35.1	274	20.6	20.0
3	21.6	13.8	31.0	24.6	35.7	25.9	21.0	355	32.4	38.6
4	5.9	3.1	2.8	8.9	9.5	6.7	6.4	3.2	11.8	2.9
無記入	0.0	4.6	2.8	2.2	3.6	2.7	2.3	1.6	2.9	1.4
計	100.0	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
	(51)	(65)	(171)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問14 物価の上がり方が統計としてテレビや新聞で発表されることがあります。こういうことは政治にどの程度の影響を与えていると思いますか？

- | | | |
|---------------|---------------|----------------|
| 1 大いに影響を与えている | 2 少しは影響を与えている | 3 あまり影響を与えていない |
| 4 全然影響を与えていない | 5 その他〔記入〕 | |

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	27.5	215	31.0	26.1	36.9	28.6	31.6	38.7	23.5	37.1
2	47.1	523	46.5	47.0	31.0	44.5	43.9	30.6	47.1	28.6
3	15.7	16.9	12.7	18.7	23.8	18.0	20.5	25.8	26.5	22.9
4	2.0	3.1	8.5	4.5	2.4	4.2	2.3	3.2	2.9	8.6
5	2.0	3.1	0.0	0.0	2.4	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
無記入	5.9	3.1	1.4	3.7	3.6	3.4	1.7	1.6	0.0	2.9
計	100.0	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問15 調査をことわる人や調査に非協力的な人たちに対しては、法律で答えることを強制する方がよいと思いますか、それとも、小・中学校のときから統計の大切さを教える方がよいと思いますか？

1 法律で答えることを強制する	2 小・中学校のときから統計の大切さを教える
3 その他（記入）	

	福岡市					計	柳川市	宮江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	15.7	6.2	14.1	9.7	6.0	9.9	4.7	14.5	11.8	5.7
2	82.4	84.6	83.1	85.1	83.3	83.9	91.2	80.6	85.3	85.7
3	0.0	7.7	1.4	3.0	3.6	3.2	2.9	3.2	2.9	5.7
無記入	2.0	1.5	1.4	2.2	7.1	2.9	1.2	1.6	0.0	2.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

問16 国の統計調査にもっと協力が得られるようにするためには、つきの中では、さしあたりどちらが効果的だと思いますか？

1 調査結果をもっと政治に生かす	2 協力者にお礼をする
3 その他（記入）	

	福岡市					計	柳川市	宮江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
1	66.7	80.0	77.5	82.8	77.3	78.3	73.1	74.2	52.9	78.6
2	17.6	7.7	12.7	8.2	6.0	9.6	16.4	17.7	32.4	10.0
3	7.8	9.2	7.0	3.7	9.5	6.9	7.0	6.5	8.8	8.6
無記入	7.8	3.1	2.8	5.2	7.1	5.1	3.5	1.6	5.9	2.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

意見の記入

〔ご協力ありがとうございました。調査員の立場から何か御意見がございましたら、ウラにご自由にお書き下さい。〕

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
有記入	235	262	113	201	202	200	76	32	88	100
無記入	765	738	887	791	805	800	924	968	912	900
計	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

記名（封筒または調査票）

	福岡市					計	柳川市	富江町	天明町	矢部町
	中央区	博多区	東区	西区	南区					
記名有	96.1	95.4	100.0	96.3	96.4	96.8	93.0	93.5	88.2	84.3
無記名	3.9	4.6	0.0	3.7	3.6	3.2	7.0	6.5	11.8	15.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(51)	(65)	(71)	(134)	(84)	(405)	(171)	(62)	(34)	(70)

3. 調査票

お 願 い

今回の国勢調査、たいへんご苦労さまでした。

国の統計調査をめぐって、さいきん、調査環境の変化が指摘され、その対策がのぞまれています。そのため、わたくしたちは、文部省の科学研究費と、トヨタ財団の研究助成金により、その実情を調査しています。これまで、一般住民、高校・大学生、および一部の統計調査員を調査して、その結果を『特集統計環境実態調査報告』（日本統計研究所『研究所報』№4，№5）にまとめ、また昭和54年度日本統計学会総会、および昭和55年度総会で報告し、関係諸方面の関心を集めました。

今年度は、国の最も重要な統計調査である国勢調査が実施されましたので、この機会に国勢調査を実際に担当された調査員の方々にご意見をうかがい、その成果をまとめて統計行政の施策資料に供したいと考えています。原則として、貴市町村の国勢調査員の方全員を対象としていますが、大都市ではサンプリングにより、調査対象者をえらばせていただいています。

調査は、無記名で、ご返送いただいた記入済の調査票はこの研究目的のため以外には一切使用いたしません。

期日までに、返送いただけていない方へは、調査の精度を高めるため重ねてご協力の依頼を申し上げる予定ですので、すでにご返送いただいた皆様への失礼をさけるため、返信用封筒だけにはご記名をお願いします。

なお、この調査に関してご質問がございましたら、下記の事務局にお問い合わせ下さい。

昭和55年10月

統計環境・総合研究グループ

代表 大 屋 祐 雪（九州大学）
坂 元 慶 行（文部省統計数理研究所）
森 博 美（法政大学・日本統計研究所）
高 橋 政 明（鹿児島大学）
永 井 博（熊本商科大学）
浜 砂 敬 郎（九州大学）

（事務局） 〒812 福岡市東区箱崎6-19-1

九州大学経済学部統計学研究室

大 屋 祐 雪
TEL (092) 641-1101 (内線) $\left\{ \begin{array}{l} 3747 \\ 3749 \\ 3700 \end{array} \right.$



調 査 票

[1980 : 10]
〔統計環境・国勢調査員〕

九州大学経済学部統計学研究室 〒812 福岡市東区箱崎 6-19-1

性 (1 男 2 女) 住所 (都道府県 市区町村)

年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	20才 未 満	20才 }	25才 }	30才 }	35才 }	40才 }	45才 }	50才 }	55才 }	60才 }	65才 }	70才 以上
		24才	29才	34才	39才	44才	49才	54才	59才	64才	69才	

問 1 あなたはいまの住所に何年くらい住んでいますか？

	1	2	3	4	5	6	7
	0年 }	5年 }	10年 }	15年 }	20年 }	25年 }	30年 以上
	4年	9年	14年	19年	24年	29年	

問 2 次の調査のうち、これまでに統計調査員になったことがあるものに○をつけて下さい。

	昭和50年	51年	52年	53年	54年	55年
国 勢 調 査		/	/	/	/	/
労 働 力 調 査		/	/	/	/	/
商 業 統 計 調 査	/	/	/	/	/	/
農 業 セ ン サ ス		/	/	/	/	/
家 計 調 査		/	/	/	/	/
工 業 統 計 調 査		/	/	/	/	/
就 業 構 造 基 本 調 査	/	/	/	/	/	/
事 業 所 統 計 調 査		/	/	/	/	/
その他〔記入〕						

問 3 あなたはどのようなきっかけで国勢調査の調査員になりましたか？
つぎのどれか一つに○をつけて下さい。

1 自治体の「広報」をみて応募した	2 統計調査員の経験者から誘われた
3 身内や知りあいの自治体の職員から たのまれた	4 自治体から直接依頼された
5 自分が自治体の職員だから	6 町内会から推せんされた
7 町内会の役員だから	8 その他〔記入〕

(自治体とは都道府県、市区町村全てを含む)

問 4 調査員を引き受けた動機は次のどれに近いですか？ 二つだけ選んで下さい。

1 社会勉強になるから	2 頼まれたから仕方なく
3 多少とも収入を得たいから	4 ひまができたから
5 社会奉仕的な仕事をしたかったから	6 その他〔記入〕

問7 あなたが訪問されたとき、国勢調査が実施されることをどのくらいの世帯が知っていましたか？

1 ほとんどの世帯が知っていた	2 7～8割の世帯が知っていた
3 半分ぐらいの世帯が知っていた	4 2～3割の世帯が知っていた
5 ほとんどの世帯が知らなかった	6 その他〔記入〕

問8 あなたは、今後も国の統計調査員をひきうけたいと思いますか？

1 思う	2 思わない
------	--------

問9-1 a) 調査に行き、調査世帯から「かならず答えなければならないのか」というような質問を受けたことがどの程度ありましたか？

1 質問されたことはない	2 まれに質問されることがある
3 しばしば質問される	4 その他〔記入〕

b) 「この調査は何のためにするのか」というような質問はどうでしたか？

1 質問されたことはない	2 まれに質問されることがある
3 しばしば質問される	4 その他〔記入〕

c) 「なぜこんな項目まで調べる必要があるのか」というような質問はどうでしたか？

1 質問されたことはない	2 まれに質問されることがある
3 しばしば質問される	4 その他〔記入〕

d) 「税金の資料など他の目的には本当に使わないのか」というような質問はどうでしたか？

1 質問されたことはない	2 まれに質問されることがある
3 しばしば質問される	4 その他〔記入〕

問9-2 では、どの質問を受けたとき最も説明に困りますか？ 説明の困難さの順に番号(1番～4番)を記入して下さい。

<input type="checkbox"/>	・ 「かならず答えなければならないのか」
<input type="checkbox"/>	・ 「この調査は何のためにするのか」
<input type="checkbox"/>	・ 「なぜこんな項目まで調べる必要があるのか」
<input type="checkbox"/>	・ 「税金の資料など他の目的には本当に使わないのか」

問9-3 今回の国勢調査で最もいやがられたと思われる調査項目はどれですか？ つぎのなかから三つだけ選んで下さい。

1 氏名	2 続柄	3 年齢	4 配偶者の有無	5 学歴
6 仕事の有無(あり、なし)	7 勤め先の名前	8 仕事の種類	9 収入	
10 住宅	11 その他〔記入〕			

問 10 最近、一般に統計調査員を希望する人が少なくなっているといわれています。次のことからはその理由としてどの程度でしょうか？

a) 「仕事のわりには報酬が少ないから」というのはどの程度の理由でしょうか？

- | | | | | | |
|---|-------------|---|-------------|---|--------------|
| 1 | 大きな理由になっている | 2 | 少しは理由になっている | 3 | あまり理由になっていない |
| 4 | 全然理由になっていない | 5 | その他〔記入〕 | | |

b) 「非協力世帯が多いから」というのはどの程度の理由でしょうか？

- | | | | | | |
|---|-------------|---|-------------|---|--------------|
| 1 | 大きな理由になっている | 2 | 少しは理由になっている | 3 | あまり理由になっていない |
| 4 | 全然理由になっていない | 5 | その他〔記入〕 | | |

c) 「夜間訪問をしなければならないから」というのはどの程度の理由でしょうか？

- | | | | | | |
|---|-------------|---|-------------|---|--------------|
| 1 | 大きな理由になっている | 2 | 少しは理由になっている | 3 | あまり理由になっていない |
| 4 | 全然理由になっていない | 5 | その他〔記入〕 | | |

d) 「調査員の仕事が臨時的(臨時職)だから」というのはどの程度の理由でしょうか？

- | | | | | | |
|---|-------------|---|-------------|---|--------------|
| 1 | 大きな理由になっている | 2 | 少しは理由になっている | 3 | あまり理由になっていない |
| 4 | 全然理由になっていない | 5 | その他〔記入〕 | | |

e) 「調査票が複雑だから」というのはどの程度の理由でしょうか？

- | | | | | | |
|---|-------------|---|-------------|---|--------------|
| 1 | 大きな理由になっている | 2 | 少しは理由になっている | 3 | あまり理由になっていない |
| 4 | 全然理由になっていない | 5 | その他〔記入〕 | | |

問 11 最近、調査をことわる世帯がふえているといわれています。つぎのことからは、調査をことわる世帯がふえた理由としてどの程度大きいと思いますか？

a) 「個人の秘密を知られたくないから」というのはどの程度の理由でしょうか？

- | | | | | | |
|---|-------------|---|-------------|---|--------------|
| 1 | 大きな理由になっている | 2 | 少しは理由になっている | 3 | あまり理由になっていない |
| 4 | 全然理由になっていない | 5 | その他〔記入〕 | | |

b) 「調査の結果が悪用されるおそれがあるから」というのはどの程度の理由でしょうか？

- | | | | | | |
|---|-------------|---|-------------|---|--------------|
| 1 | 大きな理由になっている | 2 | 少しは理由になっている | 3 | あまり理由になっていない |
| 4 | 全然理由になっていない | 5 | その他〔記入〕 | | |

c) 「調査に協力しても直接自分の利益にならないから」というのはどの程度の理由でしょうか？

- | | | | | | |
|---|-------------|---|-------------|---|--------------|
| 1 | 大きな理由になっている | 2 | 少しは理由になっている | 3 | あまり理由になっていない |
| 4 | 全然理由になっていない | 5 | その他〔記入〕 | | |

d) 「めんどうくさいから」というのはどの程度の理由でしょうか？

- | | | | | | |
|---|-------------|---|-------------|---|--------------|
| 1 | 大きな理由になっている | 2 | 少しは理由になっている | 3 | あまり理由になっていない |
| 4 | 全然理由になっていない | 5 | その他〔記入〕 | | |

e) 「個人の権利意識が強まったから」というのはどの程度の理由でしょうか？

- | | | | | | |
|---|-------------|---|-------------|---|--------------|
| 1 | 大きな理由になっている | 2 | 少しは理由になっている | 3 | あまり理由になっていない |
| 4 | 全然理由になっていない | 5 | その他〔記入〕 | | |

問 12 国の統計調査と個人の秘密との間の関係について次の2つの意見がありますが、あなたはどちらに賛成ですか？

1. より正しい統計をつくるためには、個人の身上や生活内容にふれることがあってもしかたがない
- 2 正しい統計をつくるためであっても、個人の身上や生活内容にふれるべきではない
- 3 その他〔記入〕

問 13 くりかえし訪問して、調査の目的や趣旨を説明しても協力が得られない時、あなたならどうしますか？ つぎの中から一つ選んで下さい。

- 1 自分の立場を説明して頼みこむ
- 2 申告義務を強調して説得する
- 3 指導員に代ってもらう
- 4 その他(具体的に)

問 14 物価の上がり方が統計としてテレビや新聞で発表されることがあります。こういうことは政治にどの程度の影響を与えていると思いますか？

- 1 大いに影響を与えている
- 2 少しは影響を与えている
- 3 あまり影響を与えていない
- 4 全然影響を与えていない
- 5 その他〔記入〕

問 15 調査をこたわる人や調査に非協力的な人たちに対しては、法律で答えることを強制する方がよいと思いますか、それとも、小・中学校のときから統計の大切さを教える方がよいと思いますか？

- 1 法律で答えることを強制する
- 2 小・中学校のときから統計の大切さを教える
- 3 その他〔記入〕

問 16 国の統計調査にもっと協力が得られるようにするためには、つぎの中では、さしあたりどちらが効果的だと思いますか？

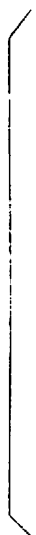
- 1 調査結果をもっと政治に生かす
- 2 協力者にお礼をする
- 3 その他〔記入〕

問 17 あなたのご職業は何ですか？

- 01 農林水産業(農・漁業団体職員を除く)
- 02 自営の商工サービス業
- 03 会社員
- 04 団体職員(農・漁業団体職員を含む)
- 05 専門・自由業(医師・教師など)
- 06 学 生
- 07 市区町村の公務員
- 08 都道府県の公務員
- 09 [07, 08] 以外の公務員
- 10 主婦
- 11 無職
- 12 その他〔記入〕

{ ご協力ありがとうございました。調査員の立場から何か御意見がございましたら、ウラにご自由にお書き下さい。 }

意見記入



統計研究参考資料 No.17

1984年2月13日

発行所 法政大学日本統計研究所

東京都千代田区富士見2-17-1

TEL 03-264-9375

発行人 喜多克己